

予 算 審 査 特 別 委 員 会

平成31年3月13日（水曜日）

1. 開 会
1. 議案第26号の審査
1. 延会について
1. 延 会

午前10時00分開会

出席委員（12名）

竹中弘光君	佐々木敏雄君
佐々木みさ子君	稲葉定君
大友啓一君	只野順君
後藤洋一君	杉浦謙一君
門田善則君	大泉治君
鈴木英雅君	遠藤積雄君

欠席委員（1名）

久勉君

説明のため出席した者の職氏名

町長	大橋信夫君	総務課長 参事兼課長	渡辺信明君
企画財政課 参事兼課長	今野博行君	まちづくり推進課長	小野伸二君
まちづくり推進課 企業立地推進室長	大崎俊一君	税務課長	熊谷健一君
町民生活課長	高橋由香子君	町民医療福祉センター センター長	大友和夫君
町民医療福祉センター 総務管理課参事兼課長	浅野孝典君	町民医療福祉センター 福祉課長	牛渡俊元君
町民医療福祉センター 子育て支援室長	木村智香子君	町民医療福祉センター 健康課長	紺野哲君
農林振興課 参事兼課長	遠藤栄夫君	建設課長	佐々木竹彦君
上下水道課長	平茂和君	会計管理者心得兼 会計課長	木村敬君
農業委員会会長	畑岡茂君	農業委員会 事務局局長	瀬川晃君
教育委員会教育長	佐々木一彦君	教育総務課長 兼給食センター所長	熱海潤君
生涯学習課 参事兼課長	達曾部義美君	生涯学習課参事	佐々木健一君
代表監査委員	遠藤要之助君		

事務局職員出席者

事務局長	高橋貢	総務班長	今野千鶴
主事	高橋和生	主事	日野裕哉

◎開議の宣告

(午前10時00分)

○副委員長(杉浦謙一君) 皆さん、おはようございます。

本日、久委員長が欠席のため、涌谷町議会委員会条例第11条に基づきまして、副委員長の私、杉浦が委員長の職務を代行してまいります。何分初めての経験でございますので、委員の皆さん、そしてまた参与の皆さんのご協力をお願い申し上げまして、挨拶といたします。本日はよろしくお願いいたします。

ここで、開会前にお知らせしておきます。

8番久委員から欠席の届け出が出ております。

ただいまから予算審査特別委員会を開会いたします。

直ちに会議を開きます。



◎議案第26号の審査

○副委員長(杉浦謙一君) 昨日に引き続き、議案第26号 平成31年度涌谷町一般会計予算の歳出の説明を求めます。

10款教育費5項社会教育費、予算書178ページより順次説明を願います。

○生涯学習課参事兼課長(達曾部義美君) おはようございます。

それでは、予算書178ページ、179ページをお開き願います。

5項1目社会教育総務費、細目2の社会教育事務経費でございますが、前年度同様の事業内容でございますが、前年度より159万円の増額で1,202万5,000円をお願いするものでございます。

増額の主なものといたしましては、180ページ、181ページをお開き願いたいと思います。

19節負担金補助及び交付金で、②一般事務組合負担金の大崎地域広域行政事務組合負担金の増額によるものでございます。なお、事業内容につきましては、主な事業概要の50ページをご参照願います。

2目公民館費ですが、182ページ、183ページをお開き願います。

細目2の公民館運営経費でございますが、前年度より211万8,000円の減額で1,441万1,000円をお願いするものでございます。主なものといたしましては、施設の維持管理費の減額と、大石田町雪国体験事業はこれまで5回開催されましたが、事業の見直しのため、休止が主なものでございます。なお、事業内容につきましては、主な事業概要の50ページから52ページをご参照願います。

184ページ、185ページをお開き願います。

3目文化財保護費、細目1の文化財保護経費でございますが、前年度より858万5,000円の増額で1,084万7,000円をお願いするものでございます。主なものといたしましては、佐々木家住宅の維持管理経費の増額と、文化財保存活用計画作成事業費の増額となっております。文化財保存活用計画作成事業につきましては新規事業で、国庫補助金を活用して町内にある文化財全般を網羅した保存・活用のマスタープランを作成するもので、計画策定期間は3カ年予定してございます。総合計画にも記載されている事業となっております。

186ページ、187ページをお開き願います。

19節負担金補助及び交付金、④補助交付金の文化財補助金333万3,000円につきましては、新規事業といたしまして2020年の篁峯寺開宗1250年祭の一環事業として、町文化財である篁峯寺梵鐘保存施設事業補助金300万円と仁王堂補修補助金33万3,000円をお願いするものでございます。なお、補助率は1件上限300万円となっております。

細目2の歴史公園管理経費につきましては、前年と同様の管理費でございます。

細目3の文化財活用経費につきましては、前年度より46万8,000円の減額で144万5,000円をお願いするものでございます。主なものといたしましては、天平ろまん館企画展示委託料の減額となっております。

涌谷町要害屋敷復元映像作成業務委託につきましては、前年度からの継続事業で、31年度完成予定でございます。

細目4の歴史文化基金管理経費につきましては、科目設定でございます。

次のページをお願いします。

4目史料館費、細目1史料館管理経費でございますが、施設の管理運営に要する経費と、企画展を開催するための経費で、前年と同様でございます。

5目発掘調査費、細目1発掘調査費でございますが、鹿飼沼圃場整備事業に伴い、該当する箇所の埋蔵文化財の試掘調査の経費をお願いするもので、前年度より50万円ほど減額となっております。実施は秋ごろを予定しております。

190ページ、191ページをお開き願いたいと思います。

6目ががね創庫費、細目1くがね創庫管理費でございますが、施設の管理に要する経費で、前年度と同様でございます。

6項保健体育費ですが、192ページ、193ページをお開きください。

1目保健体育総務費、細目2の保健体育事務経費でございますが、前年度と同様の事業内容ですが、前年度より94万6,000円の減額で268万4,000円をお願いするものでございます。主なものといたしまして、19節負担金補助及び交付金の減額で、B & Gインストラクター研修受講者負担金と総合型スポーツクラブ運営費補助金などが減額になっております。主な事業につきましては、主な事業概要の54ページ、55ページをご参照願います。

終わります。

○教育総務課長兼給食センター所長（熱海 潤君） 2目給食センター運営経費となります。

194ページ、195ページをお開きください。

昨年比較48万1,000円減額の1億1,068万1,000円となっておりますが、12節役務費②手数料で給食費納入通知書対応テスト手数料100万円、それから13節委託料、給食費管理システム導入業務委託料210万円を計上させていただき、2020年度を目標に給食費を公会計化し、学校での集金事務をなくし、教職員の負担を軽減しようとするものです。終わります。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） 3目体育施設費、細目1体育施設管理経費でございますが、それぞれの体育施設の管理運営のための所要額をお願いするもので、前年度より86万円の減額で2,059万2,000円をお願いするものでございます。主なものといたしましては、11節需用費の光熱水費の減額、12節役務費の手数料のスタジアム電光掲示板保守点検手数料の減額、14節使用料及び賃借料で屋外トイレの撤去などでございます。終わり

ます。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） おはようございます。よろしく申し上げます。

198ページ、199ページにまいります。

12款1項1目1町起債元金でございます。対前年度1億5,321万1,000円の減でございますが、こちらは財源内訳にありますように5,386万5,000円の借換債が含まれております。終わります。

○町民生活課長（高橋由香子君） 災害援護資金貸付金償還元金947万3,000円ですが、東日本大震災の被災者に対して貸し付けしております災害援護資金の元金について償還するものです。終わります。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） 2目1町起債利子及び2一時借入金利子でございますが、538万円の減となっております。

なお、地方債の現在高調書及び詳細につきましては、予算書218ページから231ページに記載しておりますが、218ページ、219ページをお開きいただきたいと思っております。

こちらのほうには、各年度末の現在高見込みを掲載しております。平成31年度末現在高見込みにつきましては、平成30年度末現在高見込みから1億6,769万5,000円減額で64億4,811万円となる見込みでございます。先日、杉浦議員さんのほうに地方交付税の算入率は約6割ということでお話をしておりますが、平成31年度末見込み総額のうち3億8,605万1,000円、約5割につきましては全額基準財政需要額算入となる臨時財政対策債となっております。

198ページ、199ページにお戻りください。

14款予備費につきましては、1,000万円を計上しております。

以上で歳出の説明を終わりますが、町長のほうから予算編成方針作成時に財政調整基金に手をつけない予算編成を行うように指示をされましたが、「財政非常事態宣言」を発令し、そして行ったところ、残念ながら昨年度同様、財政調整基金からの繰り入れをせざるを得ない予算編成となってしまいました。今後は、各課総計予算主義のもと、より一層の財源確保及び歳出節減を図るとともに、効果的・効率的な事業実施を心がけてまいりたいと思っております。

以上で平成31年度涌谷町一般会計予算の説明を終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 以上で議案第26号 平成31年度涌谷町一般会計予算の説明は終了いたしました。

これより議案第26号 平成31年度涌谷町一般会計予算の質疑を行います。

人件費全般については各款項において行いますので、ご了承願います。

それでは、6ページ、第2表債務負担行為、7ページ、第3表地方債について、質疑ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に、歳入に入ります。

歳入については一括質疑となります。

12ページ、1款町税から43ページ、21款諸収入までについて、質疑ございませんか。1番。

○1番（竹中弘光君） おはようございます。よろしく申し上げます。

2点ほど質問いたします。

まず1点目、23ページにあります使用料の中で、公民館使用料及び体育館使用料、涌谷スタジアム使用料とい

うことで、去年よりは財源確保ということで幾らか修正はなっているようでございますけれども、この間ありました補正のほうでも増額の補正が出ているように感じております。その中におきまして、町長が非常事態宣言を発令して、町民の受益者負担というか、それもあわせて今後考えていくということを表明しておりますので、施設の利用の促進はもちろんのこと、使用料の減免とかそちらのほうも大分しているように感じられるんですけども、やはりそれ相応の部分を徴収するべきじゃないかと考えますけれども、いかがでしょうか。

2点目として、41ページの貸付金元利収入の中での地域振興公社の返済金でございますけれども、不本意ながらきのうの補正の中で修正案を出したわけでございますけれども、そちらの中身を設定しておりませんで、不備の関係上、取り下げざるを得なかった部分でございますけれども、どうしても私自身はこの540万円、返済を約束したのであれば、その部分に関しては返していただくという建前でいかないとだめだという考えを持っております。その中におきましても、去年の部分が返済されず、繰り延べになって、ことし31年度に考えていくという回答がございましたけれども、今後本当にその部分で返せるのか、大変危惧しております。そこで、私自身の考えとしては、補正のときにも申し上げましたけれども、地域振興公社に対して貸付金2,700万円が残っているわけでございますけれども、今までの形の中での経緯もございまして、ここら辺で一度見直して、貸付金の返済免除なども考えながら、振興公社の指定管理の見方を本当に考えるべき時期に来ているんじゃないかと考えますけれども、いかがでしょうか。

2点ほど質問します。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） それでは、施設の使用料減免等々についてですが、今後近隣の市町村の負担状況を踏まえまして、今財政健全化推進計画策定を予定しておりますが、それとあわせまして検討してまいりたいと思います。

なお、特に減免については涌谷町の体育協会16団体とか、あと芸術文化団体16団体、さらには趣味の会11団体等々、減免が70%程度になっておりますので、そこら辺も含めまして今後検討してまいりたいと考えております。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） お答え申し上げます。

地域振興公社への貸付金返還金につきましては、この予算書におきましては契約書によりますところでの金額540万円になっておりまして、今後のことにつきましては事務方のほうから特に申し上げることはございません。

○副委員長（杉浦謙一君） 1番。

○1番（竹中弘光君） まず使用料の点に関しましては、福利厚生施設ですので、その部分というのは十分に理解できますけれども、やはり経費がいかにかかっているかという部分を町民の方に理解していただくべきだと思いますので、近隣とはもちろん合わせなければいけない部分も重々承知してはおりますけれども、その部分をなお詳細に詰めていただきたいと思います。

続きまして、貸付金償還ですけれども、財政課長が言われたような形の部分は理解できます。その部分において今後どう考えるか、町長、お願いします。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） ありがとうございます。今のことも含めまして、今回条例は上げてお

りませんが、屋外スポーツの3施設もありますので、そこも含めまして検討してまいりたいと考えております。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 大変ご心配をおかけしております。ただいまの意見に関しましては、これからいろいろ詳細を詰めてまいりたいと。まだ結論は出しておりません。

○副委員長（杉浦謙一君） 1番。

○1番（竹中弘光君） 使用料については、よろしく申し上げます。

今ありましたけれども、町長、ここは本当に町のほうも大変になっておりますので、その部分は重々町長自身はわかっていると思いますけれども、ぜひその見直しというか、本当に町の財産でもありますし福利厚生施設でもありますけれども、それに甘えることなく、住民のこともですけれども経費のことも考えながら指導をお願いします。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 今後理事会、総会が予定されておりますので、皆さん方に窮状を訴えながら、ただいまのところは経営努力をお願いしたいと思っております。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかにありませんか。6番。

○6番（只野 順君） 関連と、それから固定資産税、13ページでございますけれども、固定資産税の見込み額が今回入っておりますけれども、この件についての増加の理由を具体的にまずお知らせください。

それから、今の公民館使用料、手数料の件ですが、先ほど課長も答弁されておりますけれども、外部施設の条例等をつくるということで、昨年から常任委員会でもつくるべきだということでお話ししておりますけれども、1年延べ、そして今後また課長がかわったら延びていくのか、タイムスケジュールも含めて、町長のほうからの指示で、それで条例をつくり、町民の方々に理解をしていただくような形で施設の使用料金の設定をすべきだと思いますけれども、いかがでございましょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 税務課長。

○税務課長（熊谷健一君） それでは、固定資産税の増加の理由ということですが。固定資産税につきましては、現年課税分1,400万円増額となっております。その内訳ですが、まず土地につきましては下落修正で390万円ほど減額となります。家屋につきましては、新增築分で1,210万円ほど増額を見込んでおります。それから、最後に償却資産ですが、490万円ほど増額を見込んでおります。以上の内訳でございます。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） それでは、使用料とあわせて屋外スポーツ条例はいつになるのかというご質問だと思いますが、現在のテニスコートについては28年間テニス協会の方が管理しておりますし、サッカー場については17年間、パークゴルフ場については14年間、それぞれそれを使っている方が管理しており、町の施設としての明確な規定がありませんでしたので、条例で定めることとして、3月に提案する予定でございましたが、今後受益者負担や指定管理等々を含めて、財政健全化推進計画策定後に提案したいと思っておりますので、その際はよろしくお願ひしたいと思ひます。以上でございます。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） 固定資産税の伸び、あるいは今町内でふえている住宅もありますけれども、空き家等々で

撤去しているところ、あるいは町に寄附をされた土地、建物等々ありますけれども、これが将来的にふえていく傾向にあると思いますけれども、この辺の土地あるいは固定資産税、今度調べて課税するということにもなると思いますけれども、この辺の税収の伸び等含めて、もう一度お願いします。

それから、今条例をつくってということでもありますけれども、やはり今回特に使用料、あるいは見直すということで、非常事態宣言の中にも含まれているので、やっぱり早急に出して、そして調整をして、課長がいる間、3月いっぱいでもいいですけれども、タイムスケジュールと、それから進捗表をつくって、そして次の方に渡していただければと思いますが、いかがですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 税務課長。

○税務課長（熊谷健一君） 空き家ということですが、まず固定資産税につきましては、家屋につきましては空き家になっても建物がある限り課税されますので、その所有者の方に課税していきます。また、家屋を取り壊しまして、更地になりました場合は、今度は逆に土地のほうが住宅用地の軽減の特例が外れますので、土地は2倍、3倍、4倍と税額が上がることになります。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） 屋外スポーツ条例を3月中に策定し、次の方に引き継ぐべきではないかという質問ですが、屋外スポーツ条例は案ということで策定をしております。それを次の課長さんに引き継ぎたいと考えております。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかにございませんか。2番。

○2番（佐々木敏雄君） 36ページ、37ページ、財産売り払い収入についてお伺いします。昨年度は、ここに黄金山工業団地の売り払い収入が入っていたわけでございます。それから、種々町管理の普通財産の処分関係もあったわけですが、ここがゼロになっている理由は、町長はわかっていたのか。当然町長が提案しているので理解しているものと思いますが、その辺をお伺いしておきます。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） お答え申し上げます。

昨年度はこちらのほうに6,000万円ですか、載せておまして、ことしにつきましては載せておりません。その理由としましては、昨年度は期待値も込めてといいますか、売るという意思表示でもございましたけれども、31年度におきましては不透明なものを歳入として見込むのはいかがなものかということもございます。当然今後売ることにしましては積極的に売り込みをしたいと思っておりますが、極力歳入のほうは見込めるものを見込むということで、もしも売れて、こちらがプラスになれば、歳入のほうの財源確保はいいのかなということで、今回については不透明なものは載せていないということになります。終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 2番。

○2番（佐々木敏雄君） 町長がどういう指示を出したのかわかりませんが、私12月に一般質問をして、黄金山工業団地を塩漬けにしないように頑張っていたいただきたいということで質問して、町長は、要約ですけれども「選挙公約でもあるので、企業誘致の推進で雇用の確保をしていきたい」というようなことで、あくまでも企業誘致を進めていく旨のことを話していますが、ここがゼロであれば公約違反ということになると思うんですが、町長、いかがですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 12月議会でもお答え申し上げましたが、今後とも企業誘致、そしてまた就労の場の確保について努力したいということには変わりございません。

○副委員長（杉浦謙一君） 2番。

○2番（佐々木敏雄君） 企画財政課長は、見込めるものというように話しましたが、あくまでもこれは予算ですので、目標値を立てて、やっぱりこれに向かって頑張っていくんだと、そういう気持ちがないと予算の意味がないと思うんですね。そうであるならば、地域振興公社だつて載せるべきじゃないんじゃないでしょうか。その辺いかがですか、町長。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） お答え申し上げます。

予算のほうは、目標値ということではできないというふうに考えております。あくまでも見込める歳入。

それから、540万円のお話を申し上げますと、契約書というものがございまして、それをもって予算に載せていると。

あと、こちらのほうの売り払いにつきましては、平成30年度は残念ながら売れなかったということで、売れば当然歳入になりますので、そのことを加味しながら、今回の予算はつくっております。

以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。10番。

○10番（門田善則君） おはようございます。

それでは、38ページ、39ページの18款給付金、目1の一般寄附金のふるさと納税について質問をさせていただきます。私、3月の一般質問の中でもふるさと納税の活用をということで質問させていただきまして、町のほうからは前向きな回答をいただいたと考えております。しかしながら、今回の当初予算を見ると、前向きの姿勢が、要は先ほどの土地の問題、売れる、売れないの問題で、目的ではないですよというふうな今の財政課長の説明は私もわかるんですが、この一般寄附金のふるさと納税はあしたにでも工夫があれば集められる金であります。それなのに、この900万円という予算は私は少ないんじゃないかと。もっとやる気を見せて、目標値を上げて、職員一丸となって取り組む、そしてすぐにお金にできるシステムですから、それを利用するべきではないかと考えますが、総務課長、いかがですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務課長。

○総務課参事兼課長（渡辺信明君） 10番門田議員さんのご質問でございます。ふるさと納税につきましては、一般質問でもいただいていたところでございますが、現実といたしまして30年度におきましても900万円という予算を組みましたが、足りなかったということで、まずは当初で上げている予算額をクリアすることが先決だと思っております。ただ、その900万円を目標にするのではなくて、先日もお話ありましたけれども、いろいろなアイデア等を出し合いまして、より一層返礼品についても魅力のあるものを探して、納税される方に涌谷町というふうな形で寄附していただけるようにこれから努力してまいりたいと考えております。終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） 課長が低姿勢でそういうお話をされると、質問者にとってはなかなか厳しくは言えない状

況もあるわけですが、私としては、前に一般質問で言いましたけれども、色麻町では涌谷町以上に人口が少なくても、1,000万円を超えた金額を集めているというのが現実にあるわけです。そうすると、やっぱり31年度、もう4月から始まるわけです。じゃあどう工夫で900万円を集めたいのかとなるわけですが、ゴルフ場のアイデアなりいろいろなアイデアも出させていただきました。これはもう早速に取り組んで、プロジェクトチームもつくりなさいとかいろいろ言いました。その姿勢を、いつからこうするんですというそのスケジュールというんですかね、涌谷のホームページにはもう載せますよとか、そういうことをきちんとやっぱり明確にしてほしいんですね。さっき生涯学習課のほうでも、いろいろとこれをつくるあれをつくると言ったものが延び延びになっているんじゃないかと。もっともっと公民館の、仮に図書室にしても1年延びてとか、仮に条例についても今前者が質問したようなこともあるわけです。私は、早速できるものは早速ということ町民にも知らせるべきだと思うし、町報に私が全面広告を出しなさいと言ったことも、いつ出すのか、その辺を明確にわかるように説明していただければ、そしてやる気を見せていただければありがたいと思うんですが、総務課長、本当に申しわけないんですが、答えていただければありがたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務課長。

○総務課参事兼課長（渡辺信明君） やれるものはすぐにというふうなことでございます。今現在、新しい返礼品として各事業者、業者さんと協議をしているものにつきましては、先日お話ししました宮城カントリークラブのプレー券でありますとか、涌谷町の小ネギ、ニラを使ってギョーザだったり小籠包だったりというものをつくっている工場が塩竈にあるわけなんですけれども、そちらのほうと返礼品事業ということで今交渉しているところです。これもいい感じで話は進んでおりますので、話が整い次第、ホームページのほうにもアップしたいというふうに考えております。

それから、先日テレビでも放映されましたレストランつきみち、あそこでつくっております冷凍ハンバーグを保健所のほうに今申請しているということでございますけれども、そちらのほうも返礼品に加えようという形で話を進めておまして、店のほうからはふるさと納税に関していろいろお手伝いをしたいというふうないいお話を伺っておりますので、それにつきましても近いうちに決定するんじゃないかというふうに感じております。

終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） 私の意図することは十分理解していると思いますし、涌谷町全体がお金がない町なんだというふうなイメージの中で、非常事態宣言が先行してしまっている部分もありますので、やっぱりそれを払拭するためにも、来年度に決算するときに「ふるさと納税で2億円入ったんだとや」と、「3億円入ったんだとや」というような喜びの話ができるようなまちづくりをしていただきたいというふうに考えますが、町長いかがですか、最後に。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 一般質問の際にもいろいろとご提案いただきました。特に従来の商品にこだわらず、新しいアイデア商品があったらどんどん開発したらいいんじゃないかと。例えばMCC、宮城カントリークラブということがございました。やはりそういったアイデアをいただきながら、宣伝してまいりたいと。ちなみに、平成30年度に申請したふるさと納税返礼品の総件数ですが、先ほど課長が申しあげましたようにホテルのレストラン

とかそういったものを利用しますと、大体農産品が多いんですけども、約80件ぐらいのふるさと納税の返礼品に開発したものが あります。やはり新しいものにつきましては非常にネームバリューがあるし、価値があるのかなと思っています。一生懸命努力します。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。4番。

○4番（稲葉 定君） 40ページ、先ほど前者が質問した地域振興公社運転資金貸付金返還金なんですけれども、きのう補正で減額補正ということになったんですけども、ことしの分も同額540万円載せているんですけども、補正で減額したということは、町も、ひいては町民も痛い目に遭っているわけで、ことしの540万円を返還していただくには確実な履行が必要であると思います。その確実な返還の履行のためにはどんな対策というか方策を考えているんでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） 当然そちらにつきましては公社に経営努力をお願いするというになります。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 4番。

○4番（稲葉 定君） 経営努力をお願いして、確実に取れるということではないと思うんですけども、何かもっと確実な方法はないんでしょうか。それがひいてはまた年度末になって減額補正だとかそういうことになっては、何の意味もない。その辺、もっと確実に返還していただく方策を……、まだ考えていないんだったらそれはそれでも仕方ないのかもわからないけれども、現時点ではどうなんですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） そちらのほうを最終的に考えるのは事業実施者だと思っております。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 4番。

○4番（稲葉 定君） それ以上の答弁はないようですので、とにかく確実に返還していただくよう企画のほうでも努力していただきたいと思います。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかにございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） なければ、次に移ります。

歳出に入ります。

歳出については項ごとになります。

46ページから49ページ、1款議会費1項議会費。ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。2款総務費1項総務管理費、48ページから71ページまでになります。

11番。

○11番（大泉 治君） 大崎地域広域行政事務組合負担金、これらについては各款項目の歳費においてそれぞれあるものですが、あえて町長の姿勢をお伺いする質問になるかと思っておりますので、この点についてご質問申し上げたいというふうに思います。

実は、葬祭場建設の位置の問題についてでございます。報道機関等々では古川の小野とか、それからまたさらに二転三転しているようなところが聞かれます。当初、広域の中心地に近いところということで合意した中での進行がみなされておりましたが、広域の副管理者である涌谷町長、そしてまた町として町民の利便性やら、それから利用の度合い、負担金のあり方について町長の考え方をお示しただけであればというふうに思いますが。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 葬祭場の場所の件ということで受けとめさせていただきました。確かに最初の段階ではドウシエンで一応決定した施設でございました。その間に、地元対策とかそういう話し合いを進める中で大崎市議会から要望書が出てまいりまして、今言ったような場所の要望が出ました。その間にもいろいろな箇所が出てまいりまして、結局消去法で今11番さんがおっしゃったような地域に決まりつつあるかと思いますが、またさらに松山地区から候補地に決定してほしいというようなことがございました。

私は、ドウシエンで一度決定なされたものをあえてそのようにするのであれば、涌谷の葬祭場も大崎広域の施設の一部でございますが、実際にまだまだ涌谷の施設は使えます。そういった際に、新しい施設ができたから涌谷のものは取り壊すという状況につきましては私は同意できないとっております。やはり公平な形で場所の決定が望ましいかと、このように常々言っております。

○副委員長（杉浦謙一君） 11番。

○11番（大泉 治君） 常々申し上げておられるということでございますが、涌谷町議会からも広域の議員として2名参加しているわけでございます。ただし、広域の議会だけにお任せしますと、どうしても多勢に無勢といえますか、2名ですので、どうにもならない分野が出てまいります。私はこういったことが進行する上で、負担金、調査費なり、それから建設設計、さまざまなものが当然ふえてくるんだろうというふうに考えております。そういった中で、今町長が答弁なされましたけれども、涌谷の斎場はまだまだ使える部分であるということを考えますときに、我々がほとんど使うことのないような、使えないような位置に設定するというのであれば、はっきりと涌谷町は葬祭場部分については離脱しますよと言うくらいの姿勢を前もってきちんと表明しておかないと、そういった負担金についてはずるずるといつまでも取られるということになりかねないと思います。単純に考えても、片道30分、40分のところに、涌谷町、地元でありながら、そこを利用しなければならないということは非常に理不尽に感じます。事前にきちんと広域の組合の中で表明しておくべきだというふうに思いますし、まだ議会としてはまとまった議論はしておりませんが、涌谷町議会から参加している議員の2名は、当然ながら広域の中で非常に理不尽であるという発言を常日ごろからしているということでございますので、その辺をお酌み取りいただきながら、町長の姿勢をきちんと表明しておくべきだというふうに私は思いますが、いかがでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） その件につきましては、皆さん方も恐らくご存じかと思いますが、涌谷の葬祭場は涌谷の町民の方々がお使いになっております。お使いと言うとちょっと語弊がありますが、それ以外のご利用なされている方々、既に調べてもらっているんですけども、米山でありますとか豊里でありますとか、米山は迫地域なんですけど、迫の葬祭場へ向かうよりも涌谷の葬祭場を利用したほうが便がよいということで、いわゆる涌谷町民、大崎広域行政事務組合圏の利用だけじゃないよと。そういった形の利用があると。これは一概にその土

地の要望とかそういった形で片づけてもらっては困ると、そのように言っております。そのことにつきましては、そういった形での利用の仕方があるということは広域のほうでも存じ上げていないようでございました。したがって、今11番議員さんがおっしゃったように涌谷の葬祭場の利便性、そしてまた利用の価値があるということをもっともっと訴えていきたいと思っております。私は当然、先ほど申し上げましたけれども、そういった不透明な決定の仕方になるのであれば、涌谷の葬祭場は残すよと、解体しないと、そのように前々から言っておりますので、このことについては変えるつもりはございません。

○副委員長（杉浦謙一君） 11番。

○11番（大泉 治君） そういうふうな決定がなされたときはとっておりますが、決定する前に姿勢だけはきちんと表明しておくべきだというふうに思います。そしてまた、大崎広域といっても矢本の根っここのところから山形県の根っこまであるわけでございます、それぞれの利用の仕方が現在も非常に違っておるわけですね。要するにほかの広域にまたがった利用の仕方をしてるのが実態でございます。そういったところから、やっぱりそれぞれ住民の利便性というものに即したあり方が必要かというふうに思いますし、ただ広域の場合には要するに均等割、人口割、使わない人も含めて負担金を出さなければならない実態になっておりますので、その辺のところをきちんとやっぱり事前に表明しておくことによって、例えば建設に係る費用、諸費用も含めまして広域では計算の仕方も違って来るんだらうと。それをそのまま黙っていけば、当然そういった費用負担も含めて総額で計算されますので、そのところはやはりきちんと、涌谷を残す、残さないは別といたしましても、姿勢だけはきちんと示しておくべきだろうというふうに考えますので、再度、残すとかという話ではなくて、町長の姿勢を表明するかしないかという部分についてお伺いしておきます。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 今予算書にも葬祭場運営経費970万1,000円、それが大崎地域広域行政事務組合負担金として載せられておりますが、今11番議員さんおっしゃいましたように、姿勢につきましては先ほど来申し上げたとおりでございます、やはり 中の候補地の決定であるかと思っております。そして、要望書の中身は葬祭場のあり方をどうこうよりも、その地域の発展がどうこうという、いわゆる何だと、そういう要望書の中身なので、やはりしっかりした考えの中での決定が一番望ましいかと、そのように感じているので、訴えておりますので、そのことはしっかりとしていきたいと思っております。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。6番。

○6番（只野 順君） 総務の一般管理経費のところの7番の賃金で、先々日も障害者雇用の件で4人足りないということで、総務課長がお話ししておりました。ハローワークに登録していますと言うぐらいで、私は去年もこの件に関して質問していますし、やはり涌谷町は福祉の町でございますので、特に障害者の雇用、今障害者も確実にふえてきていますし、あるいは若い方々も障害を持って過ごしているという状況もありますので、具体的にそのことについて何を行ったのか、まずお聞きします。

それから、10番の項目の町長交際費でございますけれども、去年は300万円、ことしは250万円に減額しております。財政が逼迫しているということでの減額はわかりますけれども、これも前回町長交際費、町長は一生懸命仕事をしていると私は思います。それを公開してくれということで、お話をしておりました。その点について、他町村と比べてどうなのかもう一度聞いて、そして公開するつもりなのかどうかを回答をお願いします。

それから、3番の職員研修経費でございますけれども、マイナス8万円ほど予算が低くなっていますけれども、職員研修委託料だけは少しふえております。この内容において、私は幹部職員の研修をもっと積極的に行って、全国の各自治体の状況を踏まえる上で、全国アカデミーでの幹部研修がありますので、ここに班長以上の方々、特に将来涌谷町を担っていただく職員方の研修をすべきと考えますので、この点についてもご回答願います。

それから、もう1カ所ですね、59ページです、情報化推進経費とあります。昨年よりも多くなりまして、事業者と5年間の委託を結んでおりますけれども、インターネットに精通した職員が専門的にいるのか。前の議員さんも、優秀な職員はパソコンを使ってふるさと納税の状況を把握して、そして涌谷に財源を持ってくるような努力をすべきと、それで3名ぐらい配置しろというお話でありました。よそに委託するとかじゃなくて、そういった職員も含めて、管理も含めてできる職員がいるのかどうかお聞きし、そしてその対策をとるのかどうかも含めて質問したいと思います。

以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務課長。

○総務課参事兼課長（渡辺信明君） 6番只野議員さんのご質問でございます。

1点目の障害者雇用について、ハローワークに募集をかけているがその後何かやっているのかということですが、前回このことについて質問があったときにもお答えしておりますが、今現在としてはハローワークに引き続き募集をかけているということでございます。

それから、2点目の町長交際費につきましては50万円の減ということですが、これまでの実績等を踏まえまして、今年度につきましては減額をお願いしたものでございまして、この交際費の公開につきましても昨年度もお話を受けておりましたが、近隣の市町村等の状況も見てはおったんですけれども、まだ最終的な決断をしていないということで、改めてまた町長ともご相談して、検討してまいりたいというふうに考えております。

それから、3点目の研修費につきましては、31年度におきましては危機管理研修ということで、班長以下の職員ということですが、30年度におきまして班長以上の職員を対象に実施しておりますので、委託の研修につきましては31年度は班長以下の職員を対象にして実施したいということです。

幹部職員等々の研修につきましては、53ページになりますけれども、19節負担金補助及び交付金におきまして、その他負担金ということで自治研修所以外での専門研修等に参加する職員に対して出しておりますけれども、この中でアカデミーであったり、それから県の町村会から助成をいただいて、東京で行われている各種専門的な研修に参加させているところでございます。

それから、4点目の情報管理の関係で、インターネットとか情報関係に精通している人間が当たっているのかということですが、限られた職員の中で、それ専門の職員ということで採用しているわけではございませんので、その中でも学歴等々を見まして、この人間であればできるということでの職員配置をしているものでございます。

終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） 障害者の雇用に関してですけれども、前にもお話ししておりますけれども、福祉課等々と連携しながら、具体的に町内にいる障害者の方々の雇用を、役場の状況ではなくて、やはりその個人、特徴を持

ったお子さんたちもおりますけれども、社会に出て一定程度の中で仕事を探さなければならないという状況もありますので、役場でもう少し障害者についての理解を深めて、そしてその人に合ったような作業内容も含めて具体的に対応していただきたいと思います。

それから、町長の交際費、情報公開して、減額すべきと私は前にもお話ししましたがけれども、これは町長の活動がよく見えるお金でございますので、やはり公開して、町民に理解していただいて、それで涌谷町の観光大使と言ったらあれですけども、顔ですから、ぜひこの辺は町長に頑張ってもらうところがありますので、もう少し明確にしていきたいと思います。

それから、先ほどの研修費でございますけれども、非常事態宣言を受けて、幹部の皆さん、参与の皆さんはやはりそれぞれの思いを持ったと思いますけれども、涌谷町の全体像が少し見えていないのかなど。各課専門の分野においては皆さんは大変優秀でございますけれども、やはりそういったものも含めまして、全国に行くといろいろな方とも会えますし、あるいは専門分野での交流ですから、非常に知識も蓄えられると思いますので、ぜひ幹部の皆さんが積極的に、自費とは言いませんけれども、少しの予算とプラスで頑張るこの辺は行っていただきたいと思います。

それから、インターネットに精通した、あるいは情報について、今IT含めて、フェイスブックで涌谷町を発信しておりますね。私のネットもほうも、各議員さんで持っている方も、涌谷のインターネットで発信されている情報は今の職員は頑張ってるなと思っております。ただ、この職員1人に負担をかけているようになると、ほかの方も含めて各職員が対応できるような形でネット社会に対応して、そして涌谷町を発信していくべきだと思いますけれども、その点について再度お願いします。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務課長。

○総務課参事兼課長（渡辺信明君） 2回目のご質問ということで、障害者雇用につきまして先ほどの1回目の答弁のときにちょっと漏れてしまいましたが、福祉との連携ということでございますが、福祉課ともお話をさせていただいていましたし、それから共生の森のほうにも伺って、例えば町の仕事を手伝えるような利用者があるかないかとかというふうな情報の交換はさせていただいているところでございますが、今後につきましても引き続きそういった情報交換をやりながら、前回の質問のときもありましたけれども、障害を持っている方々にどのような仕事をさせることができるのか等々も含めまして今検討している状況でございますので、その辺についてはもう少し時間をいただきたいというふうに思います。

それから、交際費につきましては、今各市町それぞれ公開されているところが多くなってきておりますので、先ほども申し上げましたとおり町長と相談して、そのほうに向けて検討していきたいというふうに思います。

それから、研修費でございますけれども、基本は富谷にある県の市町村職員研修所で行う研修、もしくは各部署ごとの専門研修に参加しているところではございますが、県の研修所でも宿泊を通してやる研修をやっているんですが、通所での研修をされる方が多いので、できるだけ宿泊して、研修だけじゃなくて各市町の方々との交流も行ってもらえれば大変いいというふうな話も伺っております。また、市町村アカデミー等々でやれば、全国から職員が集まってくるので、見聞を広めるということについては大変大切なこととは思いますが、予算の範囲内でできる限り出席させるようにしたいというふうに考えております。

それから、インターネットに精通したということで、広報の関係になるかと思いますが、それにつま

しては適材適所というふうな形で職員配置を進めてまいりたいと思います。

終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） 障害者雇用に関しましては、4人不足という形で聞いておりますので、これの解消にぜひ全力で取り組んでいただきたいと思います。

それから、300万円から250万円に減額した町長交際費でございますけれども、町長の一言で公開すると言えば総務課長は楽だと思っておりますので、その決意だけお願いします。

それから、幹部研修に関しては、やはり町長が指令書をきちんと出して、どれが大切かじゃなくて、それぞれの方々がローテーションを組んで、1年に2回とかそういった研修がアカデミーとかでありますので、これは私も大分前に議会のほうで予算をとっていただきまして、二度ほど行きましたけれども、5日間と3日間の研修でしたけれども、非常に濃い内容でございました。報告書をまだ持っていますけれども、それを見ながら今も質疑させていただいていますので、ぜひその件に関しては町長の指令書でやっていただきたいと思います。

さらに、今専門で浦谷町のホームページをつくっている職員の方、非常に優秀だと私は思いますけれども、やはりこういった使用料及び賃借料、あるいは使っている金額は結構大きいものでございますから、ちょっとしたメンテナンスとかそういうものを各課、近くの課で機能不全とかが起こった場合に、やっぱり精通している職員がいるとちょちょっと見て直せるという修繕関係もございますし、わざわざ業者を呼ばなくても対応できる部分もあると思っておりますので、その件についてもそういう対応をお願いしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務課長。

○総務課参事兼課長（渡辺信明君） 障害者雇用につきましては、今現在4名不足している状況ですので、解消に向けて努力してまいりたいと思っております。

交際費につきましては、町長からも今お話がありましたので、公開するよということでございますので、早速準備を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから、研修につきましては、アカデミーでも県の研修所でも同じなんですけれども、専門研修につきましてはいろいろなプログラムがありまして、時節に合った研修というものにできるだけ参加させるようにしたいと思っております。

それから、ホームページの作成につきましては、ホームページの作成とこちらの情報推進の経費とは別になるんですけれども、情報化の推進につきましては適切な管理をしてまいりたいと考えております。

終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 休憩します。再開は11時20分といたします。

休憩 午前11時08分

再開 午前11時20分

〔出席委員数休憩前に同じ〕

○副委員長（杉浦謙一君） 再開します。

質疑ございませんか。1番。

○1番（竹中弘光君） 61ページの地域交通対策経費で、町民バスの運行なんですけれども、今回涌高線とか改善の兆しが見えておりますし、また、町長の計らいだと思うんですけれども、高齢者の免許返納に対しても町民バスの利用券を出すなどして、十分頑張っているのは重々承知なんですけれども、前の一般質問で運行経路の見直しを要求していただきましたけれども、そういう部分の中で今回再度委託したと思うんですけれども、その際「検討する」という回答をいただいておりますけれども、運行経路の見直しというのは全然線を変えるというんじゃなくて、下町地区や八雲地区を回れないかということを質問しましたけれども、その点について検討していただいたかどうか、お願いします。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） お答え申し上げます。

以前、竹中議員さんからそちらのほうのご質問をいただきました。当然担当課といたしましてはその部分も含めましていろいろと、あとスクールバス等も検討させていただいたんですが、残念ながら列車の都合であったり、あるいは学校等々の関係、そちらのほうで今ある本数で、今の台数による運行ですと現状の部分がどうしても大きくなってしまうということになってしまいました。検討はしております。

それから、涌谷高校の関係です。そちらにつきましては、おかげさまで、以前はちょっと乗れないような方もいらっしまったようなんですが、今のところはそちらのほうはうまく回っているという形でございます。今後も皆様のご意見を聞きながら、よりよい方向に進めていきたいと思っております。

以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 1番。

○1番（竹中弘光君） 検討していただいているということなので、期待するところではありますけれども、確認しておきますけれども、これは一応3年でやっているのかな、契約という部分で。途中でも、要は検討しながら変えていただく可能性というものはあるのかどうか。なおかつ、何度も言いますけれども、ぜひ利用しやすいような部分の中で希望するわけでございますけれども、その点についてどうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） 契約のほうは3年となっております。ただ、そちらにつきましては変更契約ということもございますし、皆様のご要望により何とかしたいとは思っておりますが、4,700万円ほどの支出をしておりますが、そのうちの約8割が交付税の算入となっております。財政のほうもございまして、そちらのほうも含めながら検討して、よりよい方向に向かっていきたいと思っております。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。4番。

○4番（稲葉 定君） 54ページ、55ページの広報広聴費についてお尋ねします。常任委員会で、お知らせ版を廃止するという説明を受けたんですけれども、そのときに情報の伝達はホームページだとかSNSを使うんだとかいうことも説明を受けたんですけれども、先ほどの議員さんからも質問があったように、ホームページだのSNSが見られない環境の人は大分いるわけで、そういった方に対しての補完の情報の伝達はどういうふうを考えているのでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） お答え申し上げます。

お知らせ版につきましては、お知らせ版を出すまでに至った経緯というのが、全戸配付ということでいろんなチラシを各課で出しておりました。そちらを区長さん方もそれぞれ折り込むのが大変なこともございまして、集約をしてお知らせ版ということで出しておりました。そちらのほうの経費も含めて、各市町で見ましても大崎管内では涌谷町だけが15日号というのを発行しておりました。今回1日号に統合し、この間の常任委員会のお話の中でも多分言っていたかと思うんですが、そちらの部分についてはホームページだけに情報をやるということではございませんで、1日号のほうに集約といいますか、より早く皆さんに計画を立てていただいて、より早くお知らせできるようにということで、1日号に15日号を統合するというご理解をいただければと思います。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 4番。

○4番（稲葉 定君） 内容はよくわかりました。ただ、緊急の伝達事項とかそういうこと、全く廃止するというでなくて、何か必要があったらそういうのを出すという計画はないのでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） 緊急のことがあれば、当然そのときに対応させていただきます。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 4番。

○4番（稲葉 定君） お知らせ版を廃止したということで、経費削減には大きく貢献したと評価はしますので、情報伝達の遺漏のないように今後もしていただきたいと思います。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。2番。

○2番（佐々木敏雄君） 54ページ、55ページになりますが、財産管理費でお伺いします。PCB関係と、それから温泉の施設の関係でございますが、財産一般管理費でPCBの含有検査の業務委託料がありますけれども、説明で小中学校のというような感じで聞いたんですが、ちょっとそこが聞き取りにくかったので、ここの部分と、それから庁舎管理でキュービクルの工事をするわけですけれども、事業概要の中にはPCBの含有分析も含めるというようなことも入っていますけれども、この2つが何か関連があって、それで業務委託料に結びつけているのか、ちょっとその辺の関連をお聞きしたいと思います。

それから、温泉施設の環境整備、第一源泉の更新工事というような説明を受けたんですが、負担金となっていますけれども、工事発注者はどなたなのかをお伺いしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） お答え申し上げます。

私どものほうで行いますPCBにつきましては、普通財産となっております旧小里小学校、それから旧麓岳小学校の建物の分のPCBの含有調査ということになります。

それから、温泉の環境整備負担金でございますが、こちらは負担金ということで、よりわかっている公社のほうにやっていただくようなことで考えております。

以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務課長。

○総務課参事兼課長（渡辺信明君） 庁舎管理におきますキュービクルの改修工事でございますけれども、これにつきましては事業概要の4ページのキュービクル更新工事ということで載せているところでございますが、役場庁舎内の高圧電気設備、いろいろありますけれども、それぞれが25年を経過して老朽化しているということで、更新工事を行うものですが、更新する際にキュービクル内にPCBが含まれているかどうかという分析になります。企画財政課で予算計上しております検査とはまた別物でございますが、PCBの処理業務ということで別に委託料で今回800万円ほどお願いしているところでございますが、この委託料につきましては現在保管しておりますPCBが含まれている安定器でありますとかコンデンサーの処理分に係るものでございます。万が一、今回の検査におきまして高濃度のPCBが検出された場合につきましては、今回の処理業務とあわせてできるかどうかというところで、また検討することになるかと思っておりますけれども、微量であればその800万円のうちで処理できるというふうに聞いているところでございます。終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 2番。

○2番（佐々木敏雄君） 旧小里・篁岳小学校の恐らくキュービクルの撤去のために出るものだと思うんですが、そのほかに、建物が古いので蛍光灯とかそういうものに含まれている、古いそういうものがまだあの中にあるのかどうか。あるのであれば、そういうものの処理なり処分をどう考えているのか。それで、この委託料で検査して、せっかくこの800万円でPCBの処理をするわけですので、連携をとりながら考えたほうがいいのではないのかなと思うんですが、その辺のお考えをお伺いしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） お答え申し上げます。

ただいまおっしゃるとおり、キュービクルの分でございます。あと、それ以外の蛍光灯等々につきましては、もう既に検査済みでございますが、報告書もございまして、教育委員会がやっております。キュービクルについてはやっていなかったものですから、今回検査ということで、それ以外については検査済みとなっております。それから、これから検査をして、高濃度、低濃度、どうなるかわかりませんが、高濃度の場合には総務課でやるほうと一緒にやるという方向で考えております。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） それでは、この部分で人件費のほう、総体的に質疑させていただきたいと思っております。総務管理費の部分であります。全体的に本年度予算の人件費について、臨時職員の給与費が相当あるように見えます。涌谷町は1月30日に非常事態宣言を出した町、そして職員の給与カットをする予定だったのを、しないことにした町であります。そういった中で、ある自治体が涌谷町と同じような状況になったときに、何から始めたかといったときには、職員の給与カットもあったんですが、その前に臨時職員を全部使わなくしたというやり方をしたそうです。そして、今いる職員でその係を持って、要は仕事量調査というのをしたそうです。今の職員が幾らの仕事量を持って、この中に臨時職員を使った分の仕事をはめ込みできないかどうかとか、そういうことの調査をして、精査をして、やったそうなんです。私は、今回の非常事態宣言を受けて、涌谷町も人件費の割合が高いわけですから、そういったことから手をつけるべきではないかと考えますが、いかがでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務課長。

○総務課参事兼課長（渡辺信明君） 今回の非常事態宣言を受けての人件費の考え方ということだと思います。私

の総括説明の中で行いました人件費の中には、今門田議員さんがおっしゃられている臨時職員は含まれておりません。説明の中にありましたその他特別職という部分で、31年度は全体で348人ふえるというふうな形になりますけれども、臨時職員そのものも確かに多く雇用しております。ただ、一般的な事務補助員であれば、今いる正職員の中でどれだけできるかというところもはかることもできるかと思えますけれども、臨時職員の中で多く占めているのが幼稚園、保育所の先生方でございますので、その方を全て切ったときに果たして園の経営ができるかというふうになりますと、またそれは別の問題になってくるかと思えますので、臨時の雇用については本当に必要最低限の中で雇用いたしたいというふうに考えておりますので、ご理解いただきたいと思えます。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） そういう保育所とか資格を持ってやられる部分に関しては、私は特に余り気にはしていないところでありますけれども、特に役場庁舎内におかれましては、やっぱり一人一人の仕事量をまず調査すべきだろうと。その人が本当に8時間労働の中で、きちんとその仕事が8時間ずっとあるのかどうか。足りなくなる人はいないのかどうか。そうすると、臨時を使わなくてもその人の部分を入れてやれるものも各課において精査できるんじゃないかと。特に、私の調べた中ではこういうこともありました。課長が係を持っていないので、課長に係を持たせたという事例もあったそうであります。そういうことまで考えるような時期ではないかと、そこを言っているわけです。子供たちの教育が後退するようなことを言っているわけじゃなくて、要はそういったちよとした人件費の削減、仮に各課に行ってみれば、ああ、あの人も臨時なのかな、この人も臨時なのかなという方、おります。その方には大変大変申しわけないとは私は思いますが、ただそういうところからやっつかないかと抑制というのは図られないのではないか、前向きに非常事態宣言の意図が見えないのではないかというふうに感じますので、その辺についてお伺いしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務課長。

○総務課参事兼課長（渡辺信明君） 仕事量の調査ということでございますけれども、門田議員さんからのご意見ということで伺っておきたいと思えますが、なお、できればそういった形でやることによって、組織の人員配置が今の職員の数でいいのかどうかというところもわかるかと思えますので、それについては行財政改革とはまた別の行革の組織のほうの見直しの中で考えていきたいというふうに考えております。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） 最後になりますけれども、やっぱり姿勢として、町長がせっかく英断をして非常事態宣言を出したわけでございますから、また我々議会も5%の給料の返納をやったわけですので、そういう姿勢を職員から見せていくことも、町民に「ああ、努力しているんだな」というふうな部分を見せる大きなチャンスかなと思えます。最後に町長に聞きますけれども、私の案として、採用する、しないは別にいいんですけども、そういう改革の仕方もあるかと思えます。ぜひ町長のリーダーシップを発揮していただいて、仕事量調査だけはやらないで、果たして本当にこの人は8時間、1日その仕事ができるのか、逆に言うと多過ぎるという人も出てくるかもしれません。この間と言えば、文書が4日前に着いた、5日前に着いたというのがあります。そういうのは仕事量が多いからだというふうに考える場合もありますから、やっぱり調査をすることによってそういうこともあわせて理解できると思えますので、町長、ぜひその辺の仕事量調査を課長さん方に命令して、やらせたらいかかと思えますが、いかがですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 労働に対して、その結果というのは、なかなか人件費の上で出てこない部分があるんですね。でありますけれども、やはり人件費の占める位置を考えるならば、そしてまた庁舎内での労働の効率性、そういうものはやっぱり追求する必要があるかと思えます。その辺はもう少し検討させていただいて、指示を出します。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかにございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） なければ、次に移ります。2項徴税費、70ページから75ページでございます。ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。3項戸籍住民基本台帳費、74ページから77ページまでにわたります。ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。4項選挙費、76ページから83ページまでにわたります。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。5項統計調査費、82ページから85ページにわたります。ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。6項監査委員費、84ページから85ページにわたります。ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。3款民生費1項社会福祉費、86ページから97ページまでにわたります。7番。

○7番（後藤洋一君） 3目老人福祉費はよろしいんですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 入っています。7番。

○7番（後藤洋一君） 在宅老人福祉経費の中の19節の負担金補助及び交付金の涌谷町老人クラブ連合会の補助金、この補助金よりも、老人クラブそのものが今、西地区、そして東地区、そして麓岳地区と、大体3,000人の会員がいる中で、いろんな事業が最近、すごく事務も煩雑しているという中で、例えば4月、5月、6月とパークゴルフとかグラウンドゴルフ、そしていろんな研修会、振興公社の中で園芸大会とか、なかなか今そういった老人クラブそのものを進めていく中で、大変高齢化が進んでいまして、昨年うちの西地区の老人クラブの会長さんがお亡くなりになり、私の地元のそういった方も、大変仕事をしていく中で、そういった中で町長にちょっとお聞きしたいんですが、今いろんな形で公民館、そういった施設のあり方と申しますか、老人クラブの活動も含めていろんなサークル活動とか、土日問わずいろいろやっております。特に老人クラブについては健康づくりにも欠かせないような、そういった取り組みで、今お年寄りの方が積極的にやっている中で、今後公民館も含めてそういった施設のあり方も検討していくようなことが必要になるというふうに私個人的に思っているんですけれども、

町長はその辺はどのように考えているのかお聞きしたいんですけども。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 老人クラブのあり方、あるいは活動の仕方ということかと思いますが、私もいろんな老人クラブの行事にお招きいただきます。その際に、健康づくり、そしてまた地域のにぎわいづくりにはあなたの方力は欠かせないし、我々の目標とするところでもありますから頑張ってくれというような挨拶をしますけれども、ほとんどが、恐らくですよ、西地区、東地区、箕岳地区と単位老人クラブの自主運営かと思います。それから町老連というのもございます。連合会ですね。その中で、町老連が今度これをしようとなりますと、町老連の1つの行事がありますと、やはり単位老人クラブでそれに対する協議とか予算とかが必要であります。そういった形の中では、私も随分呼ばれます。3地区合同でというのは町老連だけなんですけれども、グラウンドゴルフでありますとか、パークゴルフでありますとか、結構事業数は多いです。ただ、それが参加しているお年寄りの方々の一つの喜びであれば、それは大いにやって構わないのかなど。見ますと、やはりそのことを生きがいといいますか、参加して体力づくりをしながら、健康づくりをしながらというような楽しみ方はあろうかと思っておりますので、この場で行事をどうこうと言えるわけではございませんが、逆に自分たちの仲間づくりとか地域づくりは自分たちでやるんだという意識のほうが、かえって必要になってくるかと思えますし、その辺はこれから希薄になっていく時代の中で、もっともっと地域における啓蒙をする一つの団体でもあろうかと、そのように考えております。

○副委員長（杉浦謙一君） 7番。

○7番（後藤洋一君） やはり今後そういった老人クラブの方だけじゃなくて、いろんなサークルとか、事業を公民館でいろいろ取り組んでいる方たちもいることから、支援していくと申しますか、実際には地域に老人クラブがありますから、ほとんど地域でやっているんですけども、全体的な涌谷町の老人クラブというような形での取り組みの中で、幾らかでも支援して、活動をどんどん広げていくということも今後必要になってくると思うので、そういったことでぜひ今後いろいろ検討していただきたいと、このように考えます。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 建設的なご意見ありがとうございます。職員が携わる場面もでございます。いろんなお年寄りの方々がいらっしゃいますので、集計でありますとか、そういったものにつきましてはお手伝いする部分があるかと思えます。できることをやっぱりやってあげて、その方々に生きがいを感じてもらえれば幸いかと思っております。

○副委員長（杉浦謙一君） 福祉課長。

○町民医療福祉センター福祉課長（牛渡俊元君） 老人クラブの補助金は福祉課でお出ししておりますが、実際の事務局は公民館のほうでやっておりますが、その実績報告はうちのほうに上げてもらっていますので、その状況を見ますと、39行政区、今37単位クラブがあるんですが、やっぱりその地域、行政区によって活動の温度差があるようです。今社会福祉協議会でも進めておりますが、「わくやのお宝再発見！おらほの支えあい活動実践集」というものをつくって、行政区ごとの活動、老人クラブもなんですけれども、活動の内容を1冊にまとめておまして、余り活動できていない行政区につきましてはそれを参考にしてもらおうようにしておりますので、地域差を埋めるということも大事ななということで、そういった活動を今しております。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。3番。

○3番（佐々木みさ子君） 私も老人福祉費のところでお尋ねしたいと思います。発言するのにちょっとどうなのかなと思うところがあるんですけども、20の扶助費で紙おむつ等の支給費なんですけれども、この70万円というのは前年も変わりなくあって、非課税世帯のためのものだと思うんですけども、要介護1から3までが月2,000円で、これを計算してみますと本当にわずかな方にしかやれない。要介護4から5も4,000円で、年々高齢化が進んでいる中で、財政非常事態宣言を出している中でとても言いにくいんですけども、やはり高齢の方たちに紙おむつ、買い物とかに行くとたくさんの方が紙おむつを買ってらっしゃる姿を見ます。老人の祝い金は削減になっていますけれども、この辺は少し、福祉の町でもありますので、考えていくべきではないかなというふうに思います。執行部のほうではどのようなお考えなのか、お聞かせ願いたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 福祉課長。

○町民医療福祉センター福祉課長（牛渡俊元君） 介護老人に対する紙おむつの支給事業でございます。この対象者となりますのは、今議員さんがおっしゃったとおり非課税世帯ということと、もう一つは在宅で介護されている方というふうに限定になっております。介護施設に入所しますと、そちらのほうからおむつは支給されますので、それは対象外としております。それで、今回予算の削減も考えられましたが、最低限これくらい助成して、在宅での介護を継続していただきたいということから、前年と同様の予算を確保したものでございます。

○副委員長（杉浦謙一君） 3番。

○3番（佐々木みさ子君） 先ほども話したんですけども、やはり最期は在宅でという高齢の方もおります。在宅介護というのはこれからは頭数が多くなりますので、財政難の折ではあるんですけども、やはり真剣になって考えていかなければならないことだと思います。施設で全部対応できなかつたり、個人の希望で在宅でというふうに、今みとり介護ということが言われています。そういう中で、やはりこの辺というのは町として真剣に考えていかなければならないことではないかと。在宅の介護というのは、非常に労力も要りますし、精神的にもかなり重圧になります。せめてこういうところをもう少し大幅に見ていただく温かい町にしていきたいものだなと思います。そこで、町長はこういうことに関してどのようにお考えか、お尋ねしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 私もみとった経験がございますので、質問者の言わんとしていることは十分承知しておりますが、非課税世帯で在宅という答弁も今あったようですが、そういった形でどこまで面倒を見ることができるのかといったことがございます。子育ても同じなんです。社会的弱者と言われる方々に手を加えれば、もっと別なところでいわゆるスリム化していかざるを得ない。全体の予算の中での位置づけを考えていくと。そうなりますと、当然現役世代とそういった方たちの差が出て、現役世代の方々にどれだけ我慢してもらうかということになりますので、その辺のところは十分議論していかなければならないと思っています。

○副委員長（杉浦謙一君） 3番。

○3番（佐々木みさ子君） 財政面からとか、あと現役世代にという部分は私も理解しております。また、子育て世代へのおむつを廃止したこともわかっているんですけども、先ほどから言いますように在宅のみとりというのが、施設が十分に間に合えばいいんですけども、何度も同じことを言うんですけども、最期は自宅という希望者が多くなってきた場合を考えますと、やはりこの辺というのは多少憂慮すべきものではないかなと思います。

ます。それが福祉をうたっている我が町の、最期をみとるといいますか、もう自分で歩けなくなったような高齢の方に対しても、その辺というのはこれからは考慮すべきかと思っておりますので、今後予算を組む場合には配慮していただきますよう、この辺は福祉課のほうでどう考えているか、最後にお聞きして終わりにしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 福祉課長。

○町民医療福祉センター福祉課長（牛渡俊元君） 福祉課のほうでも、在宅介護、それから在宅のみとりということで、医療連携も進めているところがございますので、今後在宅での介護を要する人がふえてくる見込みでありますので、その辺は今後検討させていただきたいと思っております。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。4番。

○4番（稲葉 定君） 86ページ、87ページの2目社会福祉事務経費の13節委託料の地域力強化推進事業委託料なんですけれども、これは説明では社協が関与するというので、私の理解不足でよくわからないんですけども、もう少し私が理解できるように、もっと簡単に説明を追加をお願いしたいです。

あと、2問目ですが、90ページ、91ページの敬老会の経費なんですけれども、敬老会が例年行われているんですけども、福祉センターでやっているんですけども大分いっぱい状態で、私の提案ではもっと小分けして、部落でやるとかなんとか、やるのであれば方法を考える時期ではないのかなと思うので、その辺のお考えをお伺いします。

あともう一つなんですけれども、94ページ、95ページの20節扶助費の中の障害児施設給付費なんですけど、これが大分昨年と金額が変わっているんですけども、内容が変わったのか対象人数が変わったのか、この辺をお伺いします。

○副委員長（杉浦謙一君） 福祉課長。

○町民医療福祉センター福祉課長（牛渡俊元君） それでは、まず1つ目の地域力強化事業でございますが、主な事業概要の13ページをお開きください。下のほうになります。こちらは国の新規事業でございます、4分の3の補助を受けられるものでございます。29年ころに始まった事業で、宮城県でこれまで取り組んでいる市町村がございませんでしたが、31年度につきましては涌谷町と石巻市と東松島市が手を挙げたものでございます。事業の内容といたしましては、社会福祉協議会への委託事業にはなりますが、地域活動に関する住民研修会、要するに支え合いをどういうふうに進めていくかという研修会などを開催するものでございます。それから、事業予定量のところの集いの場の設置、それから丸ごと相談など、集いの場と相談事業を行ってまいります。それから、地域の支え合いのマップづくりなどもこの中で行っていただくものでございます。事業についてはそういった内容を予定しております。

それから、敬老会のスペース的なものだと思いますが、対象者75歳以上が3,000人ちょっとおりますが、昨年の出席者が約700人弱ということで、パイプ椅子席にしたら結構スペースが節約できたといえますか、何とか収容ができる状況でございますので、今年度につきましても1カ所での開催を予定しております。本来は各行政区で分散して開催していただければいいのかなというふうにも考えておりますが、集会所がない行政区もございまして、以前区長さん方にもアンケートをしたところ、3地区での開催という話も出ましたが、そうしますとちょっと経費がかさむものですから、それはなかなか難しいということで、当面は1カ所での開催というふうを考えております。

それから、障害児施設給付費の伸びなのですが、これは単純に人数の増加でございます。

以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 4番。

○4番（稲葉 定君） 地域力強化推進事業については、社協に全委託ということで理解していいんだと思いますので。

敬老会のことですが、敬老会はことしも昨年同様行うということではあるんですけども、ほかの地域の事情もあると思うんですけども、私どもの行政区では町の敬老会をやってから行政区でまたやると。町に行かないで行政区の敬老会だけに参加するお年寄りの方もいるんですけども、やっぱり財政的なこともいろいろあるので、福祉課長おっしゃるとおり地域に集会する施設がないという事情もわかるんですけども、やはり細かく分けて地元でやっていただいたほうが親切的な、丁寧な敬老会ができるのかなということで、一応考えたから来年すぐ実行できるというものでもないと思うので、ぜひ考えていただきたいと思います。

それから、3番目については人数の変更ということで、了解しました。

○副委員長（杉浦謙一君） 福祉課長。

○町民医療福祉センター福祉課長（牛渡俊元君） 敬老会の開催方法につきましては、以前からかなり検討しております。町としても、各行政区でやっていただければ一番いいのかなというふうに考えておりますので、各地域の代表の方々とも検討して、今後できればそういった形で進めていきたいと思っておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかにございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 昼食のため休憩します。再開は午後1時といたします。

休憩 午後0時01分

再開 午後1時00分

〔出席委員数休憩前に同じ〕

○副委員長（杉浦謙一君） 再開します。

質疑をする際には、予算書、事業概要等の資料のページ数を明確に述べた上、質疑するようお願いいたします。

午前中からの続きで、3款民生費1項社会福祉費でありますけれども、ほかに質疑ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） なければ、次に移ります。2項児童福祉費、96ページから109ページとなります。ございませんか。6番。

○6番（只野 順君） 103ページ、児童館運営事業経費でございますけれども、7節の臨時保育士の賃金等3,186万1,000円ということで事業として上がっております。昨年も、担当の子育て支援室長初め、皆さん保育士の確保に大変苦労していると聞いております。涌谷町で今回非常事態宣言を出しまして、ここで働く人たちが何か不安があって、よそとの関係も含め、あるいは処遇の問題も含めまして、退職等々出てくる可能性もあると私は考

えますけれども、これをぜひ引きとめるために、国では保育士の処遇改善等にお金を出すということにしております。東京周辺も子育てに力を入れていくという方向で、国の政策にかじを切っておりますので、ぜひ浦谷町といたしましても臨時の保育士の賃金に関しては、確保も含めまして、質の向上も含めまして、他町に引き抜かれないような方向性を示すべきと考えますが、いかがでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 子育て支援室長。

○町民医療福祉センター子育て支援室長（木村智香子君） お答えいたします。

幼稚園教諭、それから保育士、それから学童の支援員、それぞれの部署においてもだとは思いますが、この事業を継続するためにやはり処遇改善というのは必要だと考えております。その中で、平成31年度の当初予算に当たりましては、改正が行われております。時間単価といたしましては10円のアップ、それから常勤の保育士や学童の先生、それから幼稚園の教諭、それぞれ5,000円のアップということで、クラス担任手当というのがつくことになっております。今後も、来年度、その次に向けても処遇改善については各担当と話し合っ、私どもといたしましてはお願いしていきたいと考えております。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） 室長のほうから、来年度に向けても含めまして答弁いただきましたけれども、今度これとあわせまして学童保育の部分で新しい施設ができます。そこで大体浦谷町に通っている子供さん、あるいはそこで学童の機能も果たすようなお話を聞いておりますので、ぜひ何と言っても人材確保、人がいなくて対応できないということにならないように、処遇改善を目指して、保育士の確保をしっかりと行っていただきたいと思いますが、町長は子育て、学童も含めまして、今度の新しい、来年度以降つくります施設に関しても、やはり物をつくっても魂を入れないものではちょっと、本来の目的は建物だけということにはならないと思いますので、ぜひ町長のネーミングで一つの施設の方向性と、そしてそこに集う子供たちのための魂を入れるようなアイデアを出していただいて運営をするべきと考えますが、その辺のところはどういうふうに考えていますでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 今回新設されます学童施設についての質問かと思いますが、確かに答弁しましたとおり保育士の確保、引き抜きがあったり、ほかの施設からの勧誘があったりということで、かなり現場では苦勞しているようでございます。だからといって手をこまねているわけではございませんが、やっぱり待遇改善、いわゆる労働の対価ですかね、どこまでお金の競争をするのか、そういうことも出てまいりますので、そういった苦しみもござい、今議員さんおっしゃいましたとおり、子供を育てるためにはあらゆる手段をとると、そういったこともござい、実態をもう少し調べて、あとは保育士を志す方々がいれば、そちらのほうにも目を向けていきたいなと思っておりますけれども、幸いにも長年の懸案でございました浦高の福祉課程につきましては、特別な科の設置じゃなくて選択科目の中で取り入れてもらう、そういった方向性に移りそうでございますので、その辺をもう少し頑張りながら、ぜひ子供たちのために働く方々を育てていきたいと、そのように思っております。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） 保育士あるいは幼稚園教諭等の資格を持った臨時の方たちの手で支えられている部分が浦谷の子育て支援では大きいのかなと私は思っておりますので、職員の方々もしっかりとその辺は指導も含めまし

て体制を整えていただければと思います。賃金に関しましては、国あるいは県からの予算措置がありますので、それは十分に活用していただきたいと思います。

また、児童館でございますけれども、来年度以降、第一小学区に学童クラブという名前を変えた施設として出てきますけれども、それと今ある八雲児童館の廃止、そちらの方向性も示していただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 子育て支援室長。

○町民医療福祉センター子育て支援室長（木村智香子君） 涌谷第一小学校区の学童クラブを新設した後に、八雲児童館をどうするのかというご質問だと思いますけれども、常任委員会でもお話いたしました、まず児童館と学童クラブというのは全く別な機能でございます。学童クラブは、放課後に親御さんがいない児童をお預かりするという施設でございます。児童館は、ゼロ歳から18歳までのお子さんのよりどころといいますか、そういった施設でございます。しかしながら、これまで八雲児童館は午前中しか使われておりませんでしたけれども、今資料がありますけれども、2月、自由来館で、幼児で61名、小学生20名、中学生はなしで高校生17名、一般で390名の方が来館されている施設でございます。そして、集会所としても使われておりまして、94名の方が使っております。こうしたことを整理いたしまして、その後いろいろな調査をいたし、一定のルール、そして妥当性を考えて、町民の理解を得ながら、方向性を示していきたいと思っております。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。3項災害救助費、108ページから109ページにわたります。ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。4款衛生費1項保健衛生費、108ページから117ページまでとなります。ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。2項清掃費、116ページから117ページです。質疑ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。3項上水道費、118ページから119ページとなります。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。4項医療福祉センター費、118ページから123ページにわたります。質疑ございませんか。6番。

○6番（只野 順君） 世代館研修館費でございます。121ページ、13節の委託料で142万6,000円を計上しておりますけれども、この施設は水曜日がお休みになっているという形でございますけれども、利用者はふえております。利用者はふえていますけれども、施設の管理というか、器具等に関してはどういった形で維持管理というか、そういったものをきちんとしているのか。私が使用している部分に関しましては、もう何台も休止、危ないので自分で休止の張り紙をして、使用しないようにしているものもございます。やっぱりこれは計画的に、どちらがというか、管理委託で地域振興公社に委託をしていますけれども、管理運営に関しての計画書あるいは年次的

なもので行っているのか、まずお伺いしたいと思います。

その次に、健康パーク管理費でございますけれども、5番議員が前に、健康の丘の清掃に関して、今回も100万円とっておりますけれども、4月、5月に伸びた草がぼうぼうで、今は秋になって枯れたのか、1回だけ刈ったのか、わからないような状況で処理をされております。その辺に関しましてもお答えを願います。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務管理課長。

○町民医療福祉センター総務管理課参事兼課長（浅野孝典君） 初めに研修館世代館、特に研修館の使用料及び手数料の中のトレーニングマシンのリース料で142万6,000円ほどお願いしているわけですが、このトレーニングマシンの部分につきましては、5年前に直接業者と町が、指定管理の前にリース契約を行っております。そのリース料の中に業者の保守点検というふうな部分も入っております。トレーニングマシン13台分のリース料というふうな形でお願いしている関係から、そういったふぐあいの部分については随時リース会社のほうに連絡をして、対応できるものについては対応するというふうな方法をとっているところでございます。ただし、リース以外の部分の器械もございまして、その部分は随時公社のほうから報告をいただいて、それを使用させるかさせないか、そういったところの協議をして、それぞれ判断をさせていただくというふうな形にしております。

次に健康パークの指定管理、今回100万円をお願いしているところでございます。100万円の中での管理が非常に不十分じゃないかというふうなところのご指摘もわかりません。今回、平成31年度の部分につきましては、草刈りの部分についてはおおむね2回程度というふうな形で一応計画が上がっておりますが、それで適正な管理ができるかできないかというふうなところは、今後公社と相談をしていきたいと思っております。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） トレーニングの器械とか、あるいはそれに関してのリースの契約で、5年間の中で、年に何回来るのかわかりませんが、「言われないと来られません」というお話をこの間業者の方から聞いております。

それから、この管理で、チケットを買う、我々負担の分があるんですけども、このチケット管理もいられる日と入れられない日とがあるようでございます。これは、監査委員さんは良心に従ってみんな入れるんだろうということで、使用しているようでございますけれども、やはりきちんと管理しないと、何名入って、幾ら使って、その結果もっと自分の負担分、自分の健康管理ですから、町に全部ではなくて、そういったものも含めてデータを出して、それで委託の内容を検討すべきだと思いますけれども、いかがでしょうか。

それから、今草刈りは年2回と言っておりますけれども、秋に1回ぐらい刈ったのかなと思っておりますけれども、これもやはり明確に、今まで年3回やってきたのか年2回やってきたのか1回やってきたのかわかりませんが、その状況に応じてやはりきちんと管理をしないと、あそこは観光面でもすばらしいところでございますから、そして皆さん来ますし、今度は3月21日にクロスカントリーの大会があります。今のところはきれいになっているようでございます。やはり利用していただく、あるいは交流人口をふやすとか、そういった方向の面も含めまして、一貫して管理不十分と私は感じておりますので、その点についてもう一度ご返答をお願いします。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務管理課長。

○町民医療福祉センター総務管理課参事兼課長（浅野孝典君） トレーニングルームを使用する際のチケットの確認というふうなところでございます。管理面の部分については、全て振興公社にお任せしておりますので、そう

いった不正行為がないように努めるよう、管理の徹底を図るよう指導していきたいと思っています。

次に健康パークの関係です。健康パークの使用の部分につきましては、医療福祉センターの設備管理、これは直営で業者サイドをお願いしているところでございますが、基本的にはそちらの使用とほぼ同じ形で指定管理をお願いしているところでございます。そういったところも含めて、今後公社と十分な協議をして、適正な管理に努められるようにしていきたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） 123ページの病院対策経費、病院事業会計負担金2億4,389万4,000円。単純に聞きます。この金額で31年度は間に合うということで理解してよろしいのでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務管理課長。

○町民医療福祉センター総務管理課参事兼課長（浅野孝典君） この繰入金額で、特別会計の予算は組んでおります。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） 今課長が特別会計の予算はこれで組んでいると言いましたけれども、30年度は6億円ぐらいの決算になるかと思うんですが、私から見るとこれでは全然足りなくなるんだろうというふうな思いがあります。足りない分をどうしようと考えていますか。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務管理課長。

○町民医療福祉センター総務管理課参事兼課長（浅野孝典君） 非常に難しい質問でございます。今はともかく目標に向かって収益を上げるというふうなことだけに邁進するしかないと思っております。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） 課長は難しいというふうなこと、恐らくここにいる皆さんは理解できたとは思いますが、じゃあそれに向かって頑張るということでもありますけれども、また30年度と同程度になった場合に、どこに責任の所在が発生するか、私わかりません。その辺、課長がわかるのであればお答えください。またはセンター長でも結構でございます。

○副委員長（杉浦謙一君） センター長。

○町民医療福祉センター長（大友和夫君） なかなか難しい問題なんですけれども、今健全化の対策にどういうふうに取り組んでいくかということを考えつつ、なるべくそこのところをクリアしたいというふうな思いがあります。予算を立てるときにも、やはり目標額というのはなかなか私からも見ても非常に厳しいものがありますので、開設者とともに協議しながら、そこのところは進めていきたいと思ひますし、今ドクター一人一人に協力をいただいて、何とかそこのところをクリアできるように、100%では多分だめだと思うので、120%を目指すような覚悟でいきたいと思っております。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかにございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。6款農林水産業費1項農業費、122ページから135ページにわたります。3番。

○3番（佐々木みさ子君） 127ページの19の大崎地域世界農業遺産推進協議会負担金なんですけれども、大崎地

域世界農業遺産のくくりの中で市町村の負担割合というのはどうなのか、そこから教えていただきたいと思いません。

○副委員長（杉浦謙一君） 農林振興課長。

○農林振興課参事兼課長（遠藤栄夫君） 世界農業遺産の240万円につきましては、大崎市の負担分と、それから色麻、加美、涌谷、美里の4町分の負担分が240万円ということでございます。（「 」の声あり）1町ごとです。大崎市はその倍の920万円でございますので、そのほかの4町については各240万円ずつということでございます。

○副委員長（杉浦謙一君） 3番。

○3番（佐々木みさ子君） 昨年度より102万5,000円多くなっているんですけども、説明の中でアクションプランというふうに話していたんですけども、プランですからこれからだと思んですけども、もし大まかなプランをもうある程度考えているなら、その辺を教えていただきたいと思えます。

○副委員長（杉浦謙一君） 農林振興課長。

○農林振興課参事兼課長（遠藤栄夫君） アクションプランにつきましては、1つにフィールドミュージアム構想検討会、それから認証制度、人材育成等を考えておるところでございます。その中で、きのうご説明申し上げましたけれども、やれるところからやっていくということでございまして、平成31年度については米等の一部の品目から認証制度等に取り組んでまいるとございまして、終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 3番。

○3番（佐々木みさ子君） 世界農業遺産ですから、すばらしいものなんですけれども、大崎広域の中心の市だけが、大崎市だけがこの遺産の認定をもらうに当たってかなり希望要件を満たしていたと思んですけども、果たして当町はこの240万円を出して世界農業遺産でこの町のPRができるかどうかというのが何かすごく、その辺はプランをこれから一つずつ積み上げていくということですが、やはり大崎市に負けないような、240万円でも負けないようなプランをつくっていただいて、世界農業遺産に涌谷町も入っていますので、ぜひ大崎市だけではなく、涌谷町も大いにPRできるようなプラン作成をチームで考えて、このプランが成功しますように、町長はこの世界農業遺産のアクションプランに対して、昨年度藤崎のほうに行ってやったんですけども、やはりそれだけではなく、せっかくの世界農業遺産ですので、町長もいろんな立場で参加していると思えますので、町長の思いをお聞かせいただいて、最後にしたいと思えます。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 世界農業遺産、各市町でそれぞれ考えが異なっているようでございます。しかしながら、せっかく認証をいただいた農業遺産というネーミングを、ぜひ各地域で、その土地であったり、あるいは生産物であったり、そういったものに付加価値をつけるということが最終的な目標であろうと思えます。涌谷町は、この認証を涌谷町産の農産物に添付できるように、まだそれは具体的にはどれとどれとは決まっていないうですけれども、例えば「金のいぶき」がございまして、日本遺産との関係もございまして、そういった際に日本最初の産金地から出た、いわゆる世界農業遺産の大地から出た「金のいぶき」、そういったネーミングのつけ方によって、販売にアクションを持たせる、そういったことが一番の目に見える形かと思えます。それぞれの農業施設に農業遺産だという入れ方もございまして、やはりそこにそういった生産物がある、世界農業遺産

というネーミングを使うことができるといったものが一つの大きな励みになろうかと思えます。その際には、やっぱりそれだけのネーミングで売るわけですから、しっかりしたものをつくらなければならない、そういった意識が必要かと思えます。

そういったことで、240万円の金をどうするかとなりますけれども、ロゴマークですとかそういったものを表に出せるようにしてまいりたい。それから、農業遺産の歴史の中には各地域が持つ歴史的なものが備わったものがございます。特に今なかなか少ないんですけども、涌谷で歴史的な価値があるものとして篁峯寺で行っておりますやぶさめの際の、白山祭の際のお精進料理ですか、それをぜひ復活させてほしいという要望がございます。なかなか篁峯寺のほうでもそれを継承するのは難しいようでございますが、できればそういった文化的なものにまで手を出すことができたらというふうに考えております。

以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 12番。

○12番（鈴木英雅君） 関連でございますけれども、世界農業遺産、町長は今の答弁でアクションという言葉を出して答えておりましたけれども、世界農業遺産になったときにたしか、当町には農産物が結構多く、例えば仙台市場とかいろいろな場所に出荷しています。その出荷する際の例えば袋、段ボール等に、町長は今世界農業遺産のバッジを胸元につけていますけれども、そのマークをつけてもいいのではないかなというような話もたしかあったような気がしていますけれども、世界農業遺産になって、せっかくそういうピンバッジとかがあって、全然そういう意味のアクションというのが見られないような状況なんですけれども、31年度、来年度に向けてその辺のアクションはどうなっているのか、ちょっと確認させてください。

○副委員長（杉浦謙一君） 農林振興課長。

○農林振興課参事兼課長（遠藤栄夫君） 市場等への野菜の出荷の際の袋へのロゴマークの使用ということでございますけれども、このマークの使用につきましては、各関係から申請をしていただいて、それが認められて初めてつけられるということでございますので、その辺についてはJAみどりのさんと協議をしながら、31年度に向かっていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○副委員長（杉浦謙一君） 12番。

○12番（鈴木英雅君） ぜひ課長、長年役場のほうに奉職していただいて、めでたく今月いっぱい、ご苦労さまでしたと本当に言いたい気持ちです。それで、こういう時期にちょっとくどいような話をさせてもらって申しわけないんですけども、農業遺産に涌谷町も選ばれて、まず時間もかなり過ぎています。先ほども話しましたが、そういうアクションというのが全然見えていないということもございます。そのマークを使ってだめだというわけではないので、申請をするために、JAみどりのの担当部署のほうでは町からの依頼があればいつでもオーケーですよと、一緒にやりましょうというような考えも示しているようですので、ぜひ早速新年度に向けてでももちろん結構ですから、そういう出荷する際の、少なからず段ボールとか袋に世界農業遺産のマークを入れて出荷できるように、そうすることによって当町の農畜産物をもっともっと世間に、農業遺産の涌谷の産品なんだよねと認めていただくような取り組みというのは絶対必要だと思いますので、ぜひ来年度、誰が農林振興課長になるかわかりませんが、きちんと申し伝えしていただいて、その辺、早急に具現化するようにお願いしたいと思います。

そして、課長に最後の答弁をいただければいいんですけれども、町長に人事権がございますので、次期農林振興課長にその辺を町長の口からきちんと話をさせていただきまして、スピード感のあるアクションを起こしていただければと思うんですけれども、町長、お願いですけれども、その辺の考えをよろしくお願ひしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 激励かと思えますけれども、課長さん方はそれぞれ優秀でございますので、どなたがそのポストになろうと務めることができると思います。問題は、先ほど申し上げましたがこのロゴマークを添付して出すもの、例えば市場でも、あるいは民間レストランでも構いません、しっかり世界農業遺産の大地でつくった農産物だよと言えるような品物、いわゆる品質でありますとか量でありますとか、確かに涌谷でつくった、世界農業遺産の大地でつくった農産物は優秀だけれども、一過性では市場は納得してくれません。それは質問者も十分ご承知かと思いますが、そういった生産体制と品質管理の問題が非常に求められるかと思えます。先ほど言った日本初の産金地涌谷町、そしてまた世界農業遺産に認定された涌谷町で生産された「金のいぶき」、こういったものもまだまだ流通量が少のうございます。しっかりした品質管理のもとで、ある程度の流通量に持っていきたい。まだまだ一足飛びにはいかないと思えますけれども、そういった地道な努力を続けていくことによって、初めて世界農業遺産の価値が出てくるものだと、このように思っています。

○副委員長（杉浦謙一君） 12番。

○12番（鈴木英雅君） 涌谷町産、当町の農畜産物、超一級品でございます。町長が心配している、そういうのはまずそっちに置いておいて、出荷している農家の皆さん、一生懸命その辺は注意して出荷しておりますので、ぜひJAみどりのと協議していただきまして、早急に、何度も言いますけれども早急にアクションを起こしていただけるようお願いしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 農林振興課長。

○農林振興課参事兼課長（遠藤栄夫君） 大変ありがとうございました。ただ、7月に農協合併を控えているものですから、その関係もあって、多分みどりのさんのほうでは手をつけていないという可能性もございますので、その辺はきちんと農協さんと相談をしながら、使用について協議してまいりたいと思えますので、よろしくお願ひいたします。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかにございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。2項林業費、134ページ、135ページ。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） なければ、次に移ります。7款商工費1項商工費、134ページから139ページにわたります。質疑ございませんか。5番。

○5番（大友啓一君） 2点ほどお願いします。137ページの企業誘致、それからもう1点は139ページの観光物産協会補助金でお聞ひいたします。

まず企業誘致についてでございますけれども、工業団地、3年目になりますけれども、その間、松本産業さんの工場が完成間近でありますけれども、企業誘致活動に関しまして、今まで活動してきた中でなかなか企業が、こういう企業が手を挙げそうだとか、そういう話が全然聞こえてこないんですけれども、今まで興味を示してく

れた企業さんは中にはあろうかと思えますけれども、なかなかその成果が見えない。今の状態では見えないので、すけれども、そういったところの、大体でよろしいですから、お知らせしてもらえればよろしいかなと思います。

それから、残っているところが3.5ヘクタール、3万5,000平米あるんですけれども、あの土地を一括して、1社を目当てにして活動しているものなのか、そういうところをちょっとお聞かせ願いたいと思います。

2点目でございますけれども、観光物産協会、昨年と比べて160万円ほど減額になっておりますけれども、160万円というちょっと大きい減額なんですけれども、物産協会のほうで例えば何か今までやってきたものを削除してお祭りとかそういう行事をやっていくということなのか。減額幅が余りにも大きいので、そのところをちょっとお知らせください。

○副委員長（杉浦謙一君） 企業立地推進室長。

○まちづくり推進課企業立地推進室長（大崎俊一君） それでは、5番議員さんにお答えいたします。

まず、どういった企業さんと折衝していたかということなんですけれども、工業団地が完成いたしまして、実際に直接アタックしたり、県を通して紹介いただいたりということで、何社かはお話をいただき、三、四社程度なんです。現地の視察をしていただいておりますけれども、誘致にはつながっていないのが現状でございます。

また、3.5ヘクタール一括しての販売かということですが、皆様のほうにご提示させていただいているのは3.5ヘクタール1区画で、分割可であるということでご提示をさせていただいております。形状等を考えますと、現状では2区画程度かなということで、お話をさせていただいております。

以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（小野伸二君） 観光物産協会への補助金が160万円ほど減になって、行事等の削減ということでございますが、基本的に主な概要のほうに書いてございますが、行事等につきましては来月早々に始まります桜まつり、東北鞍馬競技大会、夏まつり、秋の山唄全国大会、この4つが大きな行事でございますが、こちらの行事につきましては内容と予算を切り詰めながら事業を執行していきたいと考えております。また、同時に物産販売等もこれまで参加したところ、等々の案件についてはできるだけ参加も考えながら、当たっていきなると考えております。ただ、160万円ということでなかなか難しいところがございます。今度行われます桜まつりにつきましては、これまで第3日曜日が東北鞍馬競技大会でございました。第4日曜日に芸能ショーというイベントを行って行りましたが、こちらは報償費とか機材の借り上げ等々があるということで、観光物産協会の役員さんと相談した結果、こしは取りやめという方向になりました。その取りやめをする理由につきましても、去年もあったんですが、なかなか桜まつりと言いつつも実質第4日曜日にやっていたものから、葉桜という状態で、桜が咲いていない時期に行っていたということで、そういったところもありまして、こしの桜まつりの中の第4日曜日に行われていた芸能ショーにつきましては行わないということで、そういうところが行事では削減になったということでございます。それ以外につきましては、現在は経費等を削減しながら行う予定になっております。終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 5番。

○5番（大友啓一君） まず企業誘致のほうでございますけれども、なかなか3.5ヘクタール一括、一発勝負の1社ということは多分というか、こういう的な言葉を言うのもあれなんですけれども、なかなか難しいの

ではなかろうかと私は思っています。だから、3.5ヘクタールを例えば4分割、今の地形というか、かなり変形の土地なんですよ。そうすると、ここですというよりも、よく基礎なんかでやる地縄を張るような感じで、パンフレットの縮尺のあれに、大体こういう分割になっておりますけれども、もし必要であればこの2分割、3分割でもいいですよという、そういうちょっとした工夫、そして分割したことによって、3.5ヘクタールまで要らないんだけどもしかしたら5,000平米、1万平米、このぐらいだったらいいなという企業さんも出てくるのではないかなと思うんですよ。ただ、そういう分割をしてしまうと、必ず通路をつけるようになりますから、まるっきり3.5ヘクタールを売り払いするというものにはならないと思いますけれども、そういった細分化をして企業誘致をするという一つの工夫、工夫なのかどうかわかりませんが、そういう考え方もいいのかなとちょっと思ったもので、そのところ、どういう考えなのかお聞きします。

それから、お祭りのほうなんですけれども、例えば桜まつり、夏まつり、こういう中でよくステージで民謡とか舞踊とかをお披露目するようなものを省くという話ではないのでしょうか。やっぱりお祭りですから、そういうものを外すような減額では、今こういう町の情勢であって、やはり活気をつくるのも一つ、そして財政のほうで宣言したからといって、萎縮しながらお祭りをしても私は意味がないと思いますので、そのところをもう一度お聞かせ願います。

○副委員長（杉浦謙一君） 企業立地推進室長。

○まちづくり推進課企業立地推進室長（大崎俊一君） それでは、5番議員さんにお答えいたします。

昨年の事例なんですけれども、小規模の土地が欲しいということで、うちのほうでも分割での販売を考えて区割りを考えたことがあるんですが、やはり議員さんおっしゃるように構内道路、構内排水等で敷地がとられるということで、3.5ヘクタールが3,000くらい減ってしまうんですね。それで販売面積も減ってしまうということもあって、うちのほうでは最初からそういうことを用意しないで、3.5ヘクタールの中で分割可として、その中でオーダーメイドというか、具体的な事案に合わせて、具体的な事例があったら上司と相談して柔軟に対応させていただきたいと考えております。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（小野伸二君） 桜まつりの城山公園内のステージで行われる芸能ショーは、ことしは取りやめということになりました。これの最終判断をしたのは、観光物産協会の役員さんと事務局であるうちのほうで決めたわけでございます。最終的にはもうやむを得ないだろうということになりまして、いろいろな意見はございますが、最終的にこの予算の中でやりくりという中で、鞍馬大会をやる、あとは桜まつりのライトアップ等々もやるという中で、やむを得ず芸能ショーのほうは取りやめになったというふうに聞いています。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 5番。

○5番（大友啓一君） 企業誘致のほうなんですけれども、わからないわけではございませんけれども、今まで活動してきて、3社、4社あったと。どうしてその3社、4社の人たちがまだ踏み切れないんだろうと。足踏みしている状態なのは何でだろうと。何か原因があるのではないのかなと。当町のほうにね。例えば土地の問題とか、道路のアクセスが悪いから腕組みして考えているんだと、そういう原因があると思いますけれども、室長もそうなんですけれども、町長がトップセールスですから、いろいろ協議をしていると思いますけれども、そのところ、町長、もしその協議をした企業がなかなか来られないという原因がもしあるのであれば、ちょっと町長

のほうからお願いいたします。

それから、お祭りのほうですけれども、ちょっと聞こえなかったんですけれども、ああいうステージを使った行事はやめるということでしたか。そういうところも、やはりさっき言った民謡とか舞踊とか、その日に合わせて一生懸命練習している人たちがかなりいると思います。そういう人たちのことを考えると、私は残念でならないなと思っています。やっぱりお祭りはお祭りで、そこは町を挙げてやるべき事柄ではないかなと思いますけれども、わからないわけではないんですけれども、やっぱり金がないとことし宣言したからこれを減らしましょうというのは、私は余りにも非情さが目立つのかなと。そう考えていますけれども、最後にそのところ、よろしくお願いします。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 大変ご心配をおかけしております。企業誘致、質問者のおっしゃるとおりのものもごさいます。いろいろなところに当たっているんですね。ここに当たってきた、ここに当たってきたと言いたいですけれども、それがかえって過大な期待感になってしまうので、それはまだ申し上げませんが、分割は可、そしてまたある意味分譲単価も応じる部分があるのかなと。そのような形で、いろんなところに声がけさせていただいております。確かに室長も答弁したとおり、いろんな会社の方々からアクションがございます。でも、なかなか前に進まない。今ここで言えるのは、宮城は建築単価が高いと。名古屋より高いんですね。まだ震災単価があると。それが金ヶ崎だったり、例えばE V関係で東芝さんだったり、大きな工場は向こうに行っちゃうと。確かに交通の便もございます。それも言われます。なかなかそこから進まないというのが現状です。いろいろとご心配をおかけしているのは十分承知しておりますけれども、まだまだ何度でも足を運ぶ、そういったことが必要かと思っております。でありますから、皆さん方からご指摘いただければ、まだまだ行動範囲を広げながらセールスに当たってまいりたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（小野伸二君） 観光物産協会につきましても、最終的には与えられた予算の中で各種行事、あと物産販売等々を行うという中で、役員さんと協議した中で最終的に会長を含めて判断の結果、ステージの部分、芸能ショーを取りやめると判断したものですので、事務方としてはやむを得ないのかなと思っているところがございます。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。6番。

○6番（只野 順君） 139ページの観光対策経費の中で空き家対策総合支援事業として2,000万円、新規で駅前に民間の方々の力で空き家を活用して観光拠点、そして宿泊施設を整備するというので、お話は伺いました。非常に私といたしましても、高校生なんかの通学している子供たちが駅で待っている時間に、そういった施設がないということで、今後この施設を活用できるのかなと思います。そこで、民間で、そして今まちづくり推進課の職員が中心となって事業を計画しているようでございますけれども、今までにない涌谷の観光PR、そういった施設にならないかなというところでまず1点目、課長がわかる範囲でお願いします。

○副委員長（杉浦謙一君） まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（小野伸二君） 今回説明もいたしたところでございます、町内の有志の方々がまちづくり、まちおこしということで、町内の方々あるいは町内を訪れるの方々をもっとふやそうということで、中心になって

事業展開を今計画中ということでございます。法人についても、4月以降に新しく一般社団法人を立ち上げるということで準備を進めているところでございます。

観光PR施設ということでございますが、今町のほうで不足しています観光案内所的な部分も含めてもそうですし、また午前中もいろいろ議論がありましたが、インターネット等によっていかにして町がなかなかできない部分を今度新しくやられる方々が発信していくかという形で考えておりますし、また他の町ですね、今女川町さんとも交流があったりとか、あるいは大石田町さんとも交流をしています。そういった方々との交流も広げたいという計画も持っています。今うちのほうに来ています地域おこし協力隊の皆さんが、そういった目的で当町に来ていただいたものですから、それを具体化する施設ということで、今回一般の有志の方も含めた形で空き家対策総合支援事業を使いまして、駅前の空き家を使って、町内に足りない宿泊施設、あと観光案内的な部分、あと高校生等が望んでおりました交流スペース、ちょっとよりどころというところも、町内の方も考えてやっていただけるので、町としてはいろんな部分で支援等々していきたいなと思っているところでございます。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） 町の観光拠点、そして駅前が町の顔となります。町で今までつくってきたフィルムやCM大賞をとった、そういったフィルムというかDVD等々あると思いますけれども、観光拠点でわかりやすい説明をするのは視覚から入る、そういったものだと思っております。やはり利用者に浦谷町の歴史あるいは文化を説明できるような部分も含め、そして観光の拠点でありますから、施設の外というか、看板を大きく上げるのであればそういった支援もしながら、この施設の整備に当たっていただければなと思いますけれども、町長、その辺いかがですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 先ほど来何回も言われております非常事態宣言、その中にありまして今回2,000万円をお願いするわけですが、課長が申し上げましたとおり地域の方々、特に若い世代の方々が駅前のにぎわいを取り戻したいと、さらにまた朝晩高校生が往復で400人以上歩いていると思いますが、そういった方々に安らぎの場を与えたいということで、民間の方々が企画してくれました。町といたしましては、やっぱり今まで行政が主導したような形でやってまいりましたが、もうこれからは行政主導じゃなくて、そういった方々の思いをしっかりと見つめながら支援していきたい、こんな形で今回予算化させていただいておりますので、ぜひご賛成のほどお願い申し上げます。ありがとうございました。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかにありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） ここで休憩いたします。再開は2時10分といたします。

休憩 午後1時58分

再開 午後2時10分

〔出席委員数休憩前に同じ〕

○副委員長（杉浦謙一君） 再開します。

次に進みます。8款土木費1項土木管理費、140ページから143ページまでにわたります。2番。

○2番（佐々木敏雄君） 143ページの補助交付金について、新規事業の危険ブロック塀等の補助金事業と、それから吹きつけアスベスト調査の事業についてお伺いしますが、危険ブロックについてはスクールゾーンに接するところと説明で聞いたような気がしたんですけれども、以前に大阪府北部地震での調査でスクールゾーンは一応調査して、危険ブロックがどの程度あるかということ調べたと思うんですけれども、それに伴う補助金なのか、それをお伺いします。

それから、吹きつけアスベストですけれども、この補助金は2棟と聞いたんですが、吹きつけだから一般住宅ではないと思うんですけれども、一般住宅でもアスベストを使った建物が結構あるんだと思うんですが、その辺のどこはどのように考えているのかお伺いします。

○副委員長（杉浦謙一君） 建設課長。

○建設課長（佐々木竹彦君） それでは、1点目の危険ブロック塀の助成事業補助金の関係でございます。大阪で通学路での事故がありまして、今年度、宮城県が主体となりまして、通学路、小学校の500メートルの範囲内のブロック塀を県の職員の方とうちの職員で立ち会って、調査したわけでございます。その件数でございますが、159件ほどとなります。その中で、危険ランクが3ランクございますけれども、早急に対応が必要なものが7件、それ以外にまだ危険な箇所もございますけれども、そちらの方から町のほうとしては今年度新しくこの事業を取り込みまして、できるだけ早い時期の撤去をお願いしていきたいと考えております。また、教育委員会とか防災のほうにも連絡調整をして、通学路の安全の確保に努めていきたいと思っております。

それから、吹きつけアスベストのほうですが、登録されております事業所さん、面積は1,000平米とか大きな事業所さんの関係で登録になっているものに関しての補助を今回予定しておりまして、一般住宅の関係の補助はこの対象にはなっておりません。

○副委員長（杉浦謙一君） 2番。

○2番（佐々木敏雄君） 調査した結果159件ということで、その中で7件が危険だということで、ことし31年度の計画としては2件を予定するということですが、残りは随時ということなのか、それとも32年度、33年度と何か計画を立ててやるのか、その辺を伺っておきます。

それから、吹きつけアスベストですけれども、1,000平米以上の事業所ということですが、一般住宅は全然そのようなアスベストに関する注意喚起なり、解体時のお知らせとかは特に行っていないものなのかどうか、その辺もお伺いします。

○副委員長（杉浦謙一君） 建設課長。

○建設課長（佐々木竹彦君） 最初は2件ということですが、調査前の予算要求でもありまして、明確に結果が来たのは最近でございますが、今度改めて県の補助の説明会がございまして、そのときに追加要望ができるかどうか相談したいと思っております。

それから、一般住宅へのアスベストの調査でございますが、実際に解体時には法律で調査することが義務づけられておりますので、業者さんのほうからの調査となる見込みでございます。

○副委員長（杉浦謙一君） 2番。

○2番（佐々木敏雄君） ブロック塀の撤去の関係ですけれども、これはやはりいつ何があるかわからない、まし

てやスクールゾーン周辺であれば特に幼児等の危険が伴うわけで、早くこれは撤去すべきと思いますけれども、恐らく15万円というのは定額、幾らかかっても15万円が最高額だと思うんですけども、その辺、場所によっては仮に増額してもすべきだと思うんですが、町長、その辺のところ、いかがでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） ブロック塀の危険度につきましては、質問者おっしゃったとおりで子供が犠牲になったということで、非常に危険なものであると。なおかつ今回の地震だけでなく、以前からそういったものは言われていました。危険であるということは十分認識しております。これは補助事業ということで、工事費が限られているようでございますので、国あるいは県のほうに働きかけていきたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） なければ、次に移ります。2項道路橋りょう費、142ページから145ページにわたります。質疑ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次にまいります。3項都市計画費、146ページから149ページでございます。質疑ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） なければ、進みます。4項住宅費、148ページから151ページにわたります。質疑ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。9款消防費1項消防費、150ページから155ページまでにわたります。6番。

○6番（只野 順君） 151ページ、消防費、2項の非常備消防費でございますけれども、消防団の報酬について、今回消耗品で防火服を配備していただきましたことに対しましては、全員そろったのかなと思っております。それから、消防維持管理費、設備事業費でございますけれども、防火水槽あるいはその補修に関して質問したいと思っております。

まず最初に、消防団の団員は年々減りまして、私も昨年8月31日まで消防団員として涌谷町の防災のほうに関連してきておりました。私がやめた後ではないんですけども、どうもこの間、林野火災、住宅火災、件数が非常に多ございます。町長も大変心配していると思います。そこで、今年度から団員にそれぞれ個人ごとに報酬を出すようになったとお聞きしております。私は分団の団長でありましたから、個人でいただいておりましたけれども、各班に支給している形もございました。そこで、費用弁償を活動するごとにあげて、今の若い方たちの活動に対しての報酬として見たほうがいいのか、あるいは他町村の出動したときの費用弁償として考えて計算していくべきなのかを、前にもお話しておりましたけれども、その関係のところ、やはり団員確保の観点から少し報償費を上げるべきかと考えております。

それともう1点は、こちらの消防施設の整備事業で、前にもほかの議員が消火栓の看板がそのままになっているとか、あるいは万が一というか、こういう多発する事案に対して、消火栓の場所がわからないとか看板が消え

ているとか、そういったものは毎年計画的に整備をしていくというお話を聞いておりますけれども、私の地域、あるいはほかの地域も見ますと、そのままになっております。この件に関して、今後整備をきちんとしていくのかどうか、予算をとったのかどうかも含めてお聞きします。

○副委員長（杉浦謙一君） 暫時休憩します。

休憩 午後2時21分

再開 午後2時21分

〔出席委員数休憩前に同じ〕

○副委員長（杉浦謙一君） 再開します。

総務課長。

○総務課参事兼課長（渡辺信明君） 6番只野議員さんのご質問にお答えいたします。

1点目の消防団員の報酬につきましては、ただいま議員さんがおっしゃられましたとおり、今期30年度の下期の分から各個人に出すように今準備をしているところでございます。

団員確保のためにも報酬なりを上げるべきではないかというふうなお話でございますが、消防団員の報酬につきましては、それぞれ町の事情等があるかとは思いますが、涌谷町の報酬につきましては大崎管内を見ましても決して安いわけではなく、逆に団長、副団長については上位、多いほうです。分団長、副分団長については若干低い設定になってはいますが、団員につきましては大崎でも高いほうの部類になってはいますので、消防団員の報酬が安いというか低いというふうなことで認識はしていないところでございます。その中でそれぞれの班で活躍していただいているということでございます。

それから、2点目の消火栓とか防火水槽の看板等の関係でございますが、各性能検査とかそういったときに班ごとに表示が見えなくなっているものがあるかないかとか、そういったところを確認しているところですが、31年度におきましては、30年度でまだ手をつけていないところがありますので、30年度はこれから手をつけるということで、31年度の予算については見送ったところでございます。終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） 消防団の報償費に関しましては、私も県の分団長の研修とかで各市町村の状況を見てきておりますけれども、涌谷町は他町村と比べれば報償費は高いという形で設定になっているようでございますけれども、今後、やはり若い方たちは1つの行事に対しての費用弁償として出た、出ないで活動の範囲が明確になってくると思います。あとは、これだけの費用弁償が出ますよとかという話の中で、団員の加入も進めやすくなるのではないかなと思いますけれども、その件に関してはやはり今の若い方々ですから、昔みたいに農業だけじゃなくて、会社員の方々も多くなっております。やはり休むのも大変、あるいは行事に出るのも大変という状況の中で、やはり町のために、防火・防災のために頑張るといって入ってきてくれますので、なおさらその辺のところを明確にしながら、そして手当も涌谷町やっぱりよそよりも安全・安心なまちづくりのために人づくりもしているという形での評価で、費用弁償のほうを上げていただきたいなと思います。

それから、消火栓あるいは防火水槽の看板に関しましては、やはり有事の際に一番の明確な案内板というか、

よそからも駆けつけてくれますし、今は常備も動きます。その中での活動の範囲ということで、常備はまずある場所は毎回点検していますけれども、町としてもやっぱり看板とかそういったものに対してはきちんと対応すべきだなと思います。待っているというよりも計画的に、西地区はことしじゅう、来期は東地区でやりますよという形で、消防団の幹部の方々あるいは団員の方々にも明確に指示をして、そして一つ一つ解決していく方向で取り組むべきと思いますが、いかがですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務課長。

○総務課参事兼課長（渡辺信明君） 報酬については、6番只野議員さんが重々ご承知のことと思われます。費用弁償につきましては、先ほど申し上げませんでしたでしたが他と比べて若干安くなっております。ただ、先ほどちょっとお話もありましたように、昨年度は火災が大変多くて、消防団員の出勤状況を見ますと前年度の倍以上の団員の方が出勤されているということで、さきの3月補正で費用弁償を増額させていただいております。消防団員の方が活躍されることによって町の予算も高くつくという形にはなりますけれども、それについては今後他の市町村と比較しながら、検討していきたいというふうに考えております。

なお、今回から個人に費用弁償を渡すということでございますので、自分が出動しただけそれに見合った費用弁償がもらえるということも団員の一つの励みにもなるかと思えます。ただ、その反面、これまでの各班の団員さんの融和というものがなかなかとりづらくなるのかなというふうなところで危惧はしておりますけれども、それぞれ自分が活躍した分だけ報酬がもらえるということであれば、団員の方の励みになるというふうに考えております。

それから、看板につきましては、議員おっしゃられるとおり、団員の方々から受けることを待つのではなくということですが、私たちのほうでも町内にどれだけの直さなければいけない看板があるかというのを一旦把握して、そうした上で計画的にわかりやすい看板、見やすいというか、老朽化したものは取りかえるといったふうな、計画的に取り組んでいきたいというふうに考えております。

終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） 団員確保のためにも、そして地域の防災力の強化という形で、団員の費用弁償の増額を町長には特にお願いしておきたいと思えますし、国の国土強靱化政策の中でも防災力の強化というのほうたっております。やはりこの辺の制度利用を少し見て、そして我が町に持ってこられるものであれば早速利用して、ふやしていただければと思います。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかにございませんか。5番。

○5番（大友啓一君） 155ページの災害対策経費、きのうちちょっと説明を聞き逃したので、お聞きしますけれども、新規事業、これは今までと違って、うちは難聴地域だと言う人が別に申請しなければならないものか何かあるんですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務課長。

○総務課参事兼課長（渡辺信明君） 5番大友議員さんのご質問でございますが、それにつきましては予算書155ページの14節使用料及び賃借料のメール配信システム使用料だと思います。このことにつきましては、今まで難聴地域の解消策ということでいろいろと言われていたわけですが、その解消する一つの手だてといたしまして、これまで大崎エフエムの防災アプリを利用して災害時の情報発信というものをしておりましたが、それに

加えまして、これはメール配信になります。一旦町のほうに個人のメールを登録していただきまして、その登録していただいた方に災害時、もしくは今考えているのは常時流しております行政情報ですか、4時に流しておりますけれども、そういった情報もメールで流すことによって、一定程度難聴地域の方についても解消されるのかなと思っております。なおかつ登録していただくことによって、地域の要支援者についてもその地域で対応していただくことができるのではないかとこのように考えているところでございます。終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 5番。

○5番（大友啓一君） すると、こういうメールを受けるものがない家庭というのは結構いると思うんですけども、それを登録するという意味合いは、例えば区長さんとかそういう方々が登録して、そういう難聴地域の人たちを把握している区長さんたちが一番登録して、活動しやすくなるようなメールなんですか。個人的な登録はもちろんできるんですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 総務課長。

○総務課参事兼課長（渡辺信明君） 登録そのものは個人にしてもらえることが基本となります。その中で、区長さんであったり自治防災組織の方々に登録してもらえれば、要支援の方々に情報を伝達してもらったり、難聴地域の方であればそういった方々に教えていただくことができるのかなということで、今回このシステムの導入をお願いするものでございます。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。10款教育費1項教育総務費、156ページから163ページにわたります。2番。

○2番（佐々木敏雄君） 158ページ、159ページの教育施設等長寿命化計画策定業務の委託料についてお伺いします。新規事業です。この対象校を見ますと、中、小、幼、給食センターとこども園ということで、教育施設と言われるところが全部対象になるわけですけども、これはある程度長寿命化の計画を策定した場合に、国からの補助とかそういうものがあって計画を立てるのかどうか、その辺ちょっとお伺いしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 教育総務課長。

○教育総務課長兼給食センター所長（熱海 潤君） それではお答えします。

この長寿命化計画については、先ほども説明したところですが、2020年度までに個別の計画を立ててくださいということが文部科学省から言われております。この計画を立てることによって、維持管理の工事だったりとか改修計画等を立てるわけですが、その際に補助事業はございます。その補助事業を行うに当たって、この計画があることで優先度が上がるという話は聞いております。ただ、今回このお願いしております長寿命化計画の委託に関しては、国、県の補助はございません。終わります。

○副委員長（杉浦謙一君） 2番。

○2番（佐々木敏雄君） そうすると、一気に各学校というわけにはいかないと思うんですが、そのスパンというか、補助を受ける期間というのは結構長いんだと思うんですけども、大体どれくらい見込まれるんですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 教育総務課長。

○教育総務課長兼給食センター所長（熱海 潤君） 期間といいますか、今回の長寿命化計画を立てることによっ

て、今の建物がどれぐらい劣化といたしますか、全ての教育施設が老朽化しておりますので、コンクリートの劣化状態等も調べる予定となっておりますので、今後どの時期に幾らかかるのかというのを各施設で出しまして、優先順位を決めて事業執行をしていきたいと思っています。場合によっては、建てかえの時期というのも今回の長寿命化計画を立てることによって見えてくるのかなということ考えております。

○副委員長（杉浦謙一君） 2番。

○2番（佐々木敏雄君） それで、一般質問でもしたんですけども、子供たちも少なくなって、当然統廃合の問題も出てくると思うんですが、施設の老朽化の程度によっては早くそういう対応をしなければいけないということになると、統廃合のほうも急いで検討に入らなければいけないのではないかなと思うんですが、その辺のところは町長、今々ということではないでしょうかけれども、十分に心しておかなければいけないことではないのかなと思います。小学校の統廃合をするような内容をちらっとほめかしましたけれども、その辺はいかがでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 当然将来計画として視野に入れていかなければならないものと考えております。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。10番。

○10番（門田善則君） 163ページ、わくや子どもの心のケアハウス運営事業経費に関連しましての質疑になりますが、今、涌谷町はどうかかわからないんですが、テレビ等の報道ではまた学校内のいじめという部分で自殺者がかかり出てきて、けさのニュースでもすごくありました。涌谷の現状というのはよくわからないわけですが、そういった場合のカンファレンスといたしますか、心のケアという部分の中でこういった指導をしているのか、まずもってお聞きしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 教育総務課長。

○教育総務課長兼給食センター所長（熱海 潤君） 当町においても、残念ながらいじめ等の報告は時々ございます。そのときには、まずは担任、それから学校にはスクールカウンセラー、それからスクールソーシャルワーカー、それから今回できました心のケアハウス「コンパス」ですね、それから場合によっては子育て支援室と連携しながら対応をとっていく体制となっております。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） 私から見ると、報道でしか知り得ませんが、教育委員会が後手、後手に回っているところが多いのね。うちの教育長は前、前と未来を考えている教育長ですから、そういうことはないと思いますけれども、ぜひ後手に回らないような形をとっていただければなということで質疑させていただいていますが、特に今陰湿なのがSNSというんですか、携帯電話とかそういうもので批判をしたり、悪口を言ったりというようなことがあるわけですが、そういう携帯電話の取り扱いについて教育委員会として学校にどのようなことを指導しているのかをこの際だから聞いておきたいと思いますが、いかがですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 教育総務課長。

○教育総務課長兼給食センター所長（熱海 潤君） 今、小学校から携帯電話を持っている子供さんが多くいらっしゃいまして、学校に来た際には一度学校で預かるという対応をしているようでございます。そして、LINE等SNSでの誹謗中傷もあるやに聞きますし、そういった事故も実際に起こっております。こちらについては、

県教育委員会等からもそういった対策、それから遠田警察署のほうから指導をいただきながら、講習会等を開いて対応に当たっているところでございます。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） 課長のお話はよくわかります。特に涌谷町においては若干あるということでありませけれども、実際表に出ているものは我々は聞いておりませんので、そういった大きなものはないんだろうというふうに考えますが、やはり出てからでは後の祭りになってしまいますので、そういった意味では善後策というよりも先にやっぱり注意喚起をするということが大事だというふうに考えますので、その旨について教育長の考えを最後に聞きたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 教育長。

○教育委員会教育長（佐々木一彦君） ご指導ありがとうございます。全く門田議員さんのおっしゃるとおりだと思っております。今のところ表に出てこないというのは、早く手当てをされていて、対応させていただいております。いじめに関しても、保護者を呼んでおります。ただ、皆さんご存じのように、政府が学校に携帯を持ち込み勧奨という動きが出ております。我々もそれに対して今後、もちろん涌谷町だけじゃなくて宮城県全体が対応しなければいけないと思っておりますけれども、我々が思った以上に普及が早く、当初少人数だったんですけども、学校への持ち込みの件数もふえております。皆さんご存じのように、利用時間もどんどんふえていっているようです。今後、本当に議員さんご指摘のとおり、できるだけ早く我々も先手、先手で行けるように頑張っていきたいというふうに思います。ご指導ありがとうございました。

○副委員長（杉浦謙一君） 12番。

○12番（鈴木英雅君） 前者の質問と関連するんですけども、私は別な角度から質問させていただきたいと思えます。

ケアハウス「コンパス」なんですけれども、すごい存在が大きい施設だと、そのように思っております。そして、「コンパス」に行く子供たち、そして帰り際の子供たちの姿、顔を見ますと、帰り際にはすごく朝に来たときの顔と違ったいい顔をして、そして友達と一緒に笑顔で話をしながらバスに乗り込む、そういう姿を何度か見しております。半面、今回のこの議会の事業概要の中に「期待される成果」とありますけれども、学校に復帰するのが最終目的だと書かれておりますけれども、昨年「コンパス」が始まり、そして子供たちがお世話になっているわけなんですけれども、始まった当時と比較して、多少の出入りはあると思えますけれども、どのような評価をしているのか。子供たちの状況とかを教えてくださいたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 教育総務課長。

○教育総務課長兼給食センター所長（熱海 潤君） 夏休み後半に開所させていただいたわけですが、利用状況といたしましては中学生が7名、それから小学生が2名でございます。その中で、学校に復帰した子もいますし、4月から学校に行くという意思表示をしている子もいるようでございます。今後も不登校で家にずっといるというのではなくて、生活リズムとして、朝になったら、本来は学校に行けばいいんですけれども、ケアハウスに通って、学校に行くリズム、生活のリズム等を整えて、学校に戻るといいますか通える状態になっていければと考えております。

○副委員長（杉浦謙一君） 12番。

○12番（鈴木英雅君） 小学生2名は内容がちょっとわからないところがあるんですけども、中学生のこの7名の生徒に関しまして、学校に要するに復帰したいという子供たち、確かに子供たちはそういう強い願望を持って、自分たちも頑張らなければならないというような思いで「コンパス」に行っているのは事実です。半面、復帰先であります学校、今涌谷中学校の先生方何人かと話をする機会があるんですけども、とにかく先生方が子供たちとつき合う、学校にいる時間がまず長いということで、いろいろな意味で疲れております。私は昔から思っていたんですけども、少なからず学校の先生という立場の方々は、体も頭も健康でなければならないな、そして健康な状態で子供たちと接していただけるのがまず教師としてのあるべき姿なのかなという思いがあるんですけども、かなり今現在疲れ切って、そして授業が終わって部活、その部活のときの指導そのものも子供たちに対してかなり悪影響的な指導もしているという現場も見受けられます。そういうことも考えまして、確かに不登校で「コンパス」、そういうすばらしい施設を用意していただいたのはありがたいんですけども、先ほども言いましたけれども最終目的は各学校に復帰する、そして各学校で学校のいい思い出をつくらせる、それが教育委員会、そして町としての一つの目的だと思うんですけども、復帰先の先生方が余りにも疲れているような状況では、この「コンパス」を設置した理念そのものに対していかなものかなという思いがございます。その辺、教育長も本当に学校管理に関しては熱心に行ってもらっているというのは十二分に理解できるんですけども、間違いなく今現在先生方が何度も言いますが疲れている、その辺の改善策というのは、町だけではもちろん不可能かもしれませんが、幾らかでも先生方の疲れそのものを、疲労を手助けしていただけるような方策、施策を考えていただいて、そして学校運営をしていただければありがたいなと思いますけれども、そこら辺のところ、ちょっと難しい問題だとは思いますが、教育委員会としてどういう将来像をお持ちなのかお聞かせいただければと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 教育長。

○教育委員会教育長（佐々木一彦君） ご指摘ありがとうございます。

まずもって、「コンパス」に足を運んでいただいて、子供たちの様子を見ていただいて、ご指摘いただいたとおり学校に向けて回復しようという子供たちがふえている現状です。

ご承知のとおり、働き方改革がありまして、先生方の勤務時間も、以前我々のときは土日もなければ夏休み、冬休みもない生活を送ってきたんですけども、今は先生方の健康維持が重要だということを指摘していただいております。

涌谷町として、今後の部活動のあり方を検討している最中です。といいますのは、部活動というのは文科省が示していますとおり今後学校の中から社会体育へ移行していこうという動きになっております。涌谷町では、いち早くそういう実態に迫ればいかなということで、今後の体育施設の利用も含めて検討していきたいというふうに思っております。

それから、教育委員会の一番の仕事は、やはりいい教員を集めて、いい子供とのかかわりをしていただくというのが私たちの仕事だというふうに思っております。今年度の異動で、涌谷中学校は半数以上かわります。それなりの先生方をお呼びいたしております。いかんせん昨年度は講師が余りに多かったものですから、その辺を指摘して、今年度の異動に関しては涌谷中学校に関しては手厚い異動方針を示させていただいております。後で見ただければびっくりするぐらいかわりますし、昇任等も含めて多く出ておりますので、それについては期待

していただいているのかなというふうに思っております。

いずれにしても、涌谷町から発信できることがいっぱいあると思いますので、率先してできることから始めていきたいというふうに思っております。ありがとうございました。

○副委員長（杉浦謙一君） 12番。

○12番（鈴木英雅君） 教育長のほうから、新年度に向けての学校運営、管理の件に関して今話をいただきましたけれども、とにかく一番の願いは小学校生活、そして中学校生活、幼稚園も含めて、あの学校で生活してよかったなと本当に子供たちそれぞれが喜んで、世話になった学校を卒業していく、そういう姿が一番望ましい。そして、やっぱり自分たちが世話になった学校に対してのいい思い出というのを持ち続けられれば、おのずと、常に町長が挨拶の中で言っていますけれども、大きくなったら涌谷に帰ってきてほしいというような、毎回話をなされております。そのような思いを子供たちも、楽しい学校生活で自然とそういう教えが身にしみ、そのような思いでございまして、ぜひこの涌谷の子供たちが各学校を卒業するときに、ああこの学校で生活させてもらって本当によかったと喜んで卒業してもらえるような学校のあり方をぜひお願いしたいと思っておりますので、教育長の熱い話を聞かせていただきましたので、ぜひ実現できるようにこれからもひとつ子供たちの教育のため、よろしくお願いしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかにありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） なければ、次に進みます。2項小学校費、164ページから169ページまでにわたります。質疑ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） なければ、次に進みます。3項中学校費、168ページから175ページまでになります。質疑ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） なければ、次に進みます。4項幼稚園費、174ページから179ページまでにわたります。質疑ございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） なければ、次に進みます。5項社会教育費、178ページから191ページにわたります。質疑ございませんか。7番。

○7番（後藤洋一君） 185ページの19負担金補助及び交付金の大崎定住自立圏青年交流事業の負担金と、みやぎ青年婚活サポートセンター、婚活担当としましてぜひ1つお聞きしたいんですが、30年度の実績はどのような結果だったのでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） 涌谷町から数人の方がそちらのほうへ行かまして、（「何人」の声あり）2名ですが、ありまして、残念ながらこの方は婚活の中で結びつくことはありませんでした。

○副委員長（杉浦謙一君） 7番。

○7番（後藤洋一君） 定住自立圏のほうでの婚活事業に対する参加者は涌谷町からはいなかったんですか。そ

の下のみやぎ青年婚活サポートセンター負担金というのは、これは大崎定住自立圏とはまた違って。

それで、実は前にも婚活の件でお聞きしたことがあるんですけども、振興公社での婚活のほうは今現在のどのような状況なんですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） まず、涌谷町からのそちらのほうの申し込み者は2名ということになります。

婚活は、涌谷町で以前に単独で公社のほうに委託してやっておりましたが、そちらは参加者が同じ方ということで、それでは少し視野を広げて、大崎管内の事業に統括しまして、そちらのほうであれば実績が上がるのではないかと考えてやっていたのがここ2年ばかりでございますが、以前やっていた事業は今のところは廃止しております。

○副委員長（杉浦謙一君） 7番。

○7番（後藤洋一君） 特に出会いと申しますか、仕事をしている中でいろいろな出会いというのはなかなか難しい状況なんですけれども、特にやはりそういった対象の方が非常に地域でも多いので、いろんなPRを掲げて、この間もちょっとJAみどりのでチラシ、パンフレットをまいて、やっていたようなんですけれども、見たかどうかはちょっと。かなりカラーでやっているの、その辺と一緒にやるのも一つの方法だと思うんですよ。ですから、その辺ぜひ多くの方にPRして、参加していただくよう、婚活担当してぜひとも今後とも努力するようによろしくをお願いします。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） 今いただいた意見を新年度入れまして、さらに検討して、実績が上がるような事業に持っていきたいと考えております。ありがとうございました。

○副委員長（杉浦謙一君） ここで休憩に入ります。再開は3時15分といたします。

休憩 午後2時59分

再開 午後3時15分

〔出席委員数休憩前に同じ〕

○副委員長（杉浦謙一君） 再開します。

質疑ありませんか。4番。

○4番（稲葉 定君） 182ページ、183ページの公民館運営経費についてと、次のページの文化財保護経費の一番下の委託料についてと、もう一つ、190ページ、191ページの一番上のくがね創庫管理経費の3点についてお尋ねいたします。

公民館運営経費の中で、以前にも私も含めほかの議員さんも議会の中で公民館の指定管理化というか、それについて提案があったはずなんですけれども、その後検討なされたのかどうか。それについて1点。

次のページの佐々木家住宅に関連してなんですけど、寄附をしていただいたのは決定事項だからいいとしても、管理料として345万1,000円ですかね。恐らく毎年この程度以上に管理経費だけでかかっていくわけですし、大規

模修繕などがあればもっと大きい金額が必要になるはずですが。かかるのは仕方ないとしても、それを上回るまではいかないかもわからないんだけど、それに見合った活用法があるのかないのか、それを伺います。

そして3点目の191ページのくがね創庫管理経費なんですけど、これも以前に提案したんですが、商工会か何か、指定管理とまではいなくても、例えば鍵のあけ締め、そういった管理をお願いするとかといったことも提案したはずですが、検討したのかどうなのか。

その3点をお伺いします。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） それでは、公民館の指定管理の考えでございまして、まず指定管理については県内を調べますと50%ぐらい指定管理にしているというような状況でございました。特に指定管理については涌谷町としても今後早急に検討しなくてはいけないということで感じておりますが、人件費とか消耗品とか修繕改修工事関係をいろいろ積算しますと、涌谷公民館と麓岳公民館がありますが、そちらのほうも含めてどのような形がいいのか、自治会とか、いろいろ管理の方法がありますし、業者に委託する関係もありますが、そこら辺は今後の課題ということで、今現在はしっかりとした計画は詰めていない状況でございまして。

2点目の佐々木家住宅でございまして、活用についてというご質問だと思うんですが、ご存じのとおり昨年8月24日に町指定文化財、武家屋敷であります佐々木家住宅が寄附されまして、11月19日に正式に名義変更等がありまして、建物は180年から200年という8棟を寄附をいただいております。今後どのような活用をするかということで、これまでも文化庁の会議とかにおいて、さらには古民家の活用とか、あと筑波大学の先生とか、教育の場の寺子屋とか 小屋、あと武家屋敷ですね、精進料理とかはどうかという提案をいただいておりますが、今考えているのはまず今ある動産、甲冑とか刀を整理しておりますが、それをしっかりと整理し、あと東北工業大学の古民家建築の専門家の先生がおりまして、そちらで今案を策定中でございまして。その案ができましたら、2020年、伊達安芸宗重公350年祭の事業の一環といたしまして、検討してまいります。

次に、くがね創庫でございまして、商工会等々の管理も含めて、今後どういうふうと考えていくかということでございますが、今やはり住民サービスとかいろんなことがありまして、利用者もどんどんふえている状況でございますので、管理の面も含めると、確かに敷地内に商工会がありますので、検討したらいいのかなということも出ておりますが、そこら辺も含めて新年度以降、さらに商工会等々も含めまして検討してまいりたいと考えております。今現在、具体的に商工会と協議しているとかということところまでは至っておりません。

以上でございます。

○副委員長（杉浦謙一君） 4番。

○4番（稲葉 定君） 公民館の指定管理については、検討しているということなんですが、具体的に検討して、前へ進めていただきたいんですね。麓岳公民館もあわせて、ここで言わせていただければ、使い勝手が悪いというのは指定管理をすれば恐らく使い勝手は格段に上がると思うんです。夏場の9時に閉館、もう終わりですと。我々7時半とか8時に集まって、9時というのはとても時間的に何の行事の予定もできません。指定管理にいただければ、少なくとも10時ぐらいまでは何とかあけていただけるのかなとか、そういったこともあるので、使い勝手が悪いのでそうしてくださいと。運営経費の面についても、恐らく指定管理のほうを経費が安くて済むんじゃないかと、そう思われるんです。だから、もっとその点を具体的に前へ進めるように検討していただきたい

い、そう思います。

2問目の佐々木家住宅のことについては、東北工業大学の先生に相談しているんだということなんですけれども、相談はしても、早くそれを決定して次につなげていかないと、毎年の経費が追いつかないと、そういうことが必ず起きてしまいますので、生涯学習課だけでものを考えると恐らく大変なので、町長部局、町長も含めて活用計画というか、それを練って、皆さんの納得のいくような、理解のできるような活用法を早く見つけてほしいと思います。

それから、3点目のくがね創庫の件については、まだ具体的に相手との折衝もしたことがないということなんですけれども、自分たちで管理したほうがいいのかどうなのかも含めて、商工会にもとにかく当たってみて、それがいいのか悪いのかやっついていかないと経費節減というのは前へ進まない、そう思いますので、その辺、具体的に進めるのか進めないのかをお尋ねしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） それでは1点目、公民館の指定管理、確かに議員さんがおっしゃったように、近隣市町村では冠婚葬祭なんかをやっているところもありますし、そうすると時間もおのずと融通がきくような、今条例で定めている時間じゃなくて、早くあげるとか、夜少し延長するとかということもやっているようでございます。今度指定管理の制度導入を検討する際には、その辺を網羅しながら考えていきたいと思っております。

2点目の佐々木家住宅の関係でございますが、やはり一担当課ではこれはなかなか厳しい面はありますので、関係機関、観光面も含めて活用が考えられますので、担当課とも連携をしながら、新年度に再度検討してまいりたいと考えております。

3点目のくがね創庫の検討はどうなのかということでございますが、今後経費削減もありますので、今現在経費としても400万円、450万円、人件費などでかかっておりますので、そこら辺も含めてくがね創庫の活用計画みたいなものをつくりながら、活用と管理をどのようにしたらいいか、それも一担当課だけではできませんので、関連する課と連携をしながら検討してまいりたいと考えております。

○副委員長（杉浦謙一君） 4番。

○4番（稲葉 定君） 最初の公民館のことについてですが、先ほども説明すればよかったんですけども、時間だけでなく、公民館というのは、不勉強でよくわからないんですけども、条例なのか使用規則なのか、今はホールで飲食もできないという決まりになっているようなんですけども、それも飲食できるようにすると何かしなないと、涌谷町の施設全体を見ると飲食できない施設が結構あるので、スペース的にああいう広くて人数を集められる場所というのはほかにないもので、民間の業者もほとんどないので、使用規則なのか条例なのかよくわからなくて申しわけないんですけども、それを改めて、使えるようにしないと、我々いっぱい集まるイベントとかはできないわけです。何とかその辺もこれからの課題として考えていただきたい、そう思います。

2問目の佐々木家住宅については、町長部局、まちづくりや観光なんかとあわせて考えていきたいと答弁いただきましたけれども、全くそのとおりで、早くその活用法をつくって、我々に示していただきたいと思います。

3問目のくがね創庫については、443万円はほとんど人件費だと思うので、使い方を変えれば恐らく経費削減になって、これまで以上の成果は出ると思われまますので、具体的に検討のほどよろしくお願いします。

以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） ありがとうございます。

まず、公民館のほうに関しては、管理運営面について今後検討してまいりたいと考えております。

2点目の佐々木家住宅についても、早急に計画書をつくり、負の財産にならないように、せっかく貴重な武家屋敷をいただいたわけですので、活用方法を早急に考えていきたいと思っております。

あと、くがね創庫についても前向きに検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 今、担当のほうから詳細をお答えしました。今、議員さん方からいろいろ指定管理であったり、恐らく管理が安くなるとか、いわゆるくがね創庫につきましても同じでございます、具体的な提案がなければ検討のしようもないということでございます。検討しろ、あるいは使い方の条例を変えろということですが、それはどのような形で変えればいいのか。それは執行部も考えますけれども、議会のほうも具体はこうだからこうしたほうがいいんじゃないかと、それが議論だと思っておりますよ。公民館内で飲食できるようにするということですが、それをしてほしいのはなぜなのか。なぜできないのか。そういった具体的なものを出しながらお互いに議論するのが議会であると思っております。その点につきましては、公民館の指定管理はよその町でも結構やっているようですし、担当課に言わせれば県内でも50%の市町村がやっているということで、恐らく将来的にはそうなるだろうと。やるとすれば、具体的にそうなったときにこのような結果が出ると、そういったものがあるとやはり課といたしましても検討するのが楽なのかと。お互いに材料の持ち寄りだと思っておりますよ。佐々木家住宅もそのとおりでございます、安くなると言うけれどもどれだけ安くなるのか、そういった数字を出しながら、議論していければと思います。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） 公民館運営経費のところでございますけれども、私のところは16万円という項目がなくなりました。これは雪国体験ということで、2月に中学生を引率して大石田町に行って冬の雪国体験をするということで、6回ほどやっておりますが、去年はインフルエンザで中止になりました。今回、また復活というか、今回は子供たちが元気なものですから、私も去年の12月に大石田町の教育長さんと会いまして、ぜひ議員さんも来て一緒に見てくれというお話でしたので、今回同行させていただきました。震災から8年になりますけれども、災害時の避難の相手方、友好都市の大石田町が冬場がどういった状況で、避難ができるのかということも含めて視察にまいりました。夏場はそばのお祭りとか、あるいは花火とか、私結構行っているほうなんですけれども、冬場の大石田町に避難といった場合は、多いときでは3メートル近くなる雪の中での避難でありますから、そういったところも含めまして、今の中学生に大石田町の状況を理解していただいて、我々はなかなか、これから年も取りますし、そういった友好協定を持っている町で災害が起きれば、今の中学生が率先して、こういった町だからということである程度認識を深めていただければと思って、この事業を見てまいりました。それなのに、今回16万円、これはバス代だと思っておりますけれども、ぱっと削られて、そして相手方の大石田町には中止になりましたからという連絡ぐらいしか入っていないようです。これは相手方に対しても失礼だろうと思っておりますし、中止

にしろ、子供たちの体験の総括もしない、そういったことで子供たちが喜んだのか、あるいは何が大変だったのかとか、そういったこともちゃんと総括しないで、中止です、予算がありません、それでは情けないじゃないですか。涌谷町と大石田町の関係は、そういうものではありません。特に担当の方に申し上げますけれども、これまで6年間培ってきたものは単なるこの交流事業だけじゃないです。議員も行って研修しています。あの雪の多いところで配水場を見たり、あるいは議員同士で交流してきました。あるいは温泉施設も見せていただきました。そのほかに個人で行っておそばを食べたり、あるいはどここの議員さん来てくれましたねとかという話を常にされています。そういった交流も含めた事業なのに、ゼロ円という発想はありません。これはどなたが決めたんですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） 今議員さんからあったように、大石田町の雪国体験事業は平成25年9月20日の友好協定締結の一環として始まっております。これまで多大な宿泊代とか温泉入浴代等々、大石田町には負担をいただいております。また、ことしならずずっとなんです、体験事業の2日間、副町長さんや総務課長さんなどに大変お世話になっておりました。31年度は休止という予算になりましたが、今後見直しといたしまして、現在大石田町の宿泊の関係等々もありまして中学生男子を対象としておりましたが、今後小学生や中学生女子の参加も含め検討してまいりたいと考えております。

なお、先ほど言ったように31年度の雪国体験については、今回2月23日、24日に行った際に、副町長さんと担当課には休止の旨をお伝えしておりましたが、それだけではちょっと、今までの流れもありますので、きのう付けで御礼の文書も出しております。

以上でございます。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） 御礼も含めて、あるいは今までの体験で中学生は非常に喜んでおりましたし、大分お世話になっている大石田町に対してそういう断り方はないのかなと思います。ぜひこの16万円、あるいは今後の交流関係も含めまして、復活をさせていただいて、補正で、町長英断で構いませんので、16万円、16万円です、やはり事業の継続をお願いしたいと思います、いかがでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 大石田町にかける6番議員の熱い思いが伝わってまいりましたが、今ここで予算を復活するわけにはまいりません。いろんな議論をしながら、ぜひ実施してくれという声が大きくなれば、また時期的に補正というものがあるかと思えます。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） 補正も含めてということでございますので、やはり担当課長、今回行ってきた子供たちの意見、そして町民からの大石田町との交流関係も含め、災害協定もあります、きちんとその辺を精査して、続けられるよう町長に進言していただきたいと思えます。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） 今回参加した中学生18名の感想では、大変勉強になったと、大変貴重な、涌谷では体験できないものだと感想をいただいております。それも含めて、今後担当課としても考えていき

たいと考えております。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。10番。

○10番（門田善則君） それでは、私の考えていたのと4番議員が考えていたのがまるっきり同じだったんですが、私は違う観点からお話をさせていただきたいと思います。

まずもって、佐々木家住宅の件に関しましては、もらうと決めたのが誰なのかということもあるんですけども、最初にもらうときに、まずもって何に使うかということを考えてもらったのか、決めないでもらったのかという、そのプロセスが一番課題なのではないかなというのが、今後のこともあるから言うんですけども、今後もしそういうことがあった場合にそのプロセスも考えないでただもらうのかということにもなりますので、改めてこの件がありますので聞いておきたいわけでございます。そういった意味では、先ほどからいろいろな方が質疑をしているわけですけども、今の状況を把握すると、要は決めないままにもらってしまって、これからじゃあどうしようかなというふうな課長答弁でありました。私は逆だと思うんですね。やっぱり「あげますよ」と言われたら、本当に町にとってこれはプラスなのかマイナスなのか、町民にとって得なのか損なのかをきちんと把握して、それでこのように使えるなということをご理解をさせていただいてからもらうというのが本来の筋ではないかなと。今回はもういただいたわけですから、それはそれでいいんですけども、今後のこともありますから、その辺を十二分に気をつけていただきたいというのが私の意見であります。ですから、今後についての考えがあれば、担当課長からお聞きしたいと思います。

あと、くがね創庫でありますけれども、これは私もう3年前、4年前から言っています。必ず質疑の中で。これだけの人件費をかけてあそこの展示物、何とか登美さんとかいろいろありますけれども。常設展示。じゃあ見に来ている人が何人いるかと。それでこれだけの経費をかけていいのかと。今非常事態宣言を出している涌谷町が、そんな無駄なことをしていいのかと。私は4番議員の言っていることに賛成なんです。せっかくあそこに商工会があるんだから、今三百何万円出しているのであれば、100万円ぐらい出して、ぜひ管理していただきたい。そうしたら、商工会でももらえるんだったら喜んでやるんじゃないかなという、個人的な考えですが、そういう考えがあります。ぜひその辺も、前から言っているんだから、それをなぜ、俺は達曾部課長を買っているんですよ。なぜかという、あなたが行ってから仕事が早くなりました。図書館だって、何回言ってもはっぱ進まない。でも、あなたが行って、完成しました。だから買っているんです。それはあなたが悪いわけではなくて、今までがそうだったからこういうふうな状況になっているということです。ですから、今回で退官ということであれなんですけれども、次の課長にはその辺をきちんとお伝えして、指定管理制度についてもそうですが、必ずすぐ検討しろと。委員会をつくれとかそういうことを言って引き継ぎをされるといいかと思いますが、この3点についてお聞きしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） まず、佐々木家住宅から申し上げますと、この寄附に関しては平成29年から検討してまいりまして、平成30年8月に土地を寄附いただいたという経過がありますが、この間、なぜ町のほうで受けたのかということですが、武家屋敷が完全な状況であるので、文化財の保存が1つであります。2つ目は、先ほど申し上げたように2020年の伊達安芸宗重公の350年祭で何をやるかという事業の一環と、観光の拠点、特に籠峯寺から黄金山神社、ろまん館まで含めて、その中間に拠点をつくったらどうかという

ことで、いただいた経過があります。

次に、くがね創庫については、年間4,200人ということで、余り多くはないんですが、そこでいろんな趣味の方の展示とかもされております。そこら辺も含めて、くがね創庫の利用がもう少し多くて、収入が得られるような状況に持っていくような形であれば、もしかすると商工会という指定管理になるのか、どうなるかわかりませんが、そこら辺も管理していただけるような状況をつくっていかなくてはならないと考えております。

3点目については、今後前向きに検討してまいりたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） 私が欲しかった回答は、こういうことなんですよ。伊達安芸宗重公の350年祭に対して、要望書が出ていた時期があったと思うんですが、今回は350年祭の一環の事業として佐々木家住宅をいただきましたと、そしてそれを改修するのが350年祭の行事ですよというふうに言っていただければ、すごく納得しやすいんです。なぜそう言えないのかなと思って。350年祭で新たにまた何かをつくってくださいと言われても、どこからもお金は出てこないんですよ。だから、これを350年祭の記念事業としてやるんだよというふうな形にすると絵になるのかなと私は思っているんですけども、その辺2回目、お願いします。

あと、公民館で今請け負っていて、山岸登美さんのやっている部分なんですけれども、ぜひ早速商工会と話をしてみてください。商工会だと、お金が入るんだったらやると言うんじゃないかと俺は思うんですね。特に難しい管理ではありません。あそこの鍵をあけて、日程がいつどこで借りています、何時から何時まであけてということになりますから、ぜひその辺は早速検討していただくとありがたいと思いますけれども、教育長、その辺はいかがかなと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） それでは、武家屋敷であります佐々木家住宅ですが、これは350年祭の事業の目玉にするかと、先ほど一環と申し上げましたが、これは今言ったように一担当課じゃなくて350年祭を担当している課と連携して進めていくということにさせていただきたいと思っております。これについては、今350年祭を計画中でですので、それも含めてお願いしているというような状況でございます。

○副委員長（杉浦謙一君） 教育長。

○教育委員会教育長（佐々木一彦君） ご提言ありがとうございました。お二方のご提言を真摯に受けとめて、早速検討したいというふうに思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） じゃあ教育長、よろしくお願いします。

それで、担当課になりますけれども、佐々木家住宅について350年祭の実行委員会の方々からも町に対して350年祭について何かやってほしいような要望が出たように記憶しておりますけれども、佐々木家住宅をリフォームしたり、また植木の管理をしたり、そして今後、先ほど課長が言いましたけれども武家屋敷なのだから拝観をさせるとか、そういうことを涌谷町としての出費をして350年祭を祭る行事にしたいんだということを実行委員会の方にもお話しすれば、それ以降のお金はかからないように私は考えるんですが、そういうふうにはできないんでしょうかね。町長でもいいんですけども。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） 伊達安芸宗重公350年祭についてでございますが、当初は涌谷伊達家の宝物と言われるものがかなりあると。仙台市の博物館に寄託されているということで、発案者の方々の思いは涌谷町にもそういった博物館をつくって、伊達安芸宗重公の宝物を通年祭ということだったんですね。ところが、博物館の館長さん、あるいは学芸員の方から言わせれば、そういう施設は耐火、盗難、耐震、非常にグレードの高い施設になると。史料館を見たそうですけれども、あれは無理ですと。くがね創庫も見たそうですが、あれが一番近いだろうということですが、やはり350年にわたる宝物を新たに白日にさらすのは、傷んでしまうと。特に、私は見てきたんですが、書物類がほとんどなんですね。和紙だから今日までもちました。恐らく洋紙だけではもたないと思いますので、そういった非常に貴重なものであるから、仙台市博物館としては出したいくないと。出してやると、仙台藩と切れちゃうと。あそこにあることによって、涌谷伊達藩と仙台藩がしっかりと結びつくと。しかも寛文事件の主役、仙台伊達藩を命を呈して守った忠君の宝物を、やはり仙台伊達藩としてもしっかりと守りたいのではないかと、そのことを向こうから伝えられまして、私もそのとおりだなと。そういったものは、350年祭の前後に一定期間展示することは可能だろうと。その際には、宝物専用の運搬車ですか、普通の車では運べないそうです。そのための経費もかかると。ある程度の宝物を涌谷へ移してどうこうという議論は、その辺でなくなりました。

実際に涌谷町にはすばらしい歴史的建物がある、佐々木邸もあるんですが、佐々木邸をどうしようというときに浮かんだのは、涌谷第一小学校の旧校舎、明治の建物、バルコニー、あれは登米尋常小学校よりも価値があると言われていました。あれは今、とよま明治村ということでお客さんがいっぱい来ます。そういった歴史的なものを、あの時点でなくしてしまった。佐々木家もそういった議論が出てきました。恐らくその当時の皆さん方は、第一小学校の木造校舎を残すのは非常に金がかかるだろうと。それだけの価値があるのかという議論をして、あげくに恐らく解体したのかなと。もし残っていれば、登米の明治村にある尋常小学校よりも貴重な歴史的な建物であったらと。佐々木家につきましても、そういう議論が出ました。金がかかると。私も中を見ました。確かにかかります。ただ、それだけで片づけていいのかと。歴史的な江戸時代からの建物を、これだけの議論でふいにしていいのかという思いもいたしました。けんけんがくがくの議論をしたあげく、そういったものはやっぱり少々のお金をかけてといたしますか、そういったものであってもやっぱり残すのがその当時をしのぶ、時代背景を映すものであろうと、このような形でさせていただきました。

それで、伊達安芸宗重公350年祭、2020年、あと1年しかありません。2020年の350年祭のときにこれがその建物ですよと言って出すことができるか。できません。しっかりとリフォームするには、中も掃除、しっかり手入れをするには、恐らく年数がかかるだろうと。史料館は300年祭のときに記念建造物として建てたとされておりまして、300年祭当日に完成したわけではありません。そういった考え方もあろうと。そのような考えで、これからいろんな方策を各学芸員の方々とか学者の方々と相談してまいりたいと、こう思っております。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。1番。

○1番（竹中弘光君） 181ページの補助交付金で、青少年のための町民会議補助金とありますけれども、具体的にどのようなことをするんでしょうか。まず1点目として、お願いします。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） 青少年のための町民会議でございますが、こちらについては町内の非

行とかの抑止も含めて、パトロールをしたり、年間通して少年が非行や事件に巻き込まれないように、そういう啓蒙も含めてやっていく団体でございます。

○副委員長（杉浦謙一君） 1番。

○1番（竹中弘光君） なぜそれを聞いたかといいますと、青少年のために健全育成とかそういったことを図って、いこうという部分の中でやっている事業だと思いますけれども、わかるとおり1万円。結果的に何を言いたいか、1万円で何ができるかということをやっぱり問いたいわけでございます。賄い費とかそういうのであれば1万円で経費はこれで終わりだよという部分ですけれども、これはあくまでもボランティアの人を募って、結局いろいろな部分で会議なりをして、また、聞いたんですけれども講師を呼んで啓蒙したいというようなことも考えていますけれども、あくまでも予算が、補助金が1万円しかつかない中でしなければならぬということで、大変悩んでいるように聞いております。逆に科目設定、ついているからしなければならぬという部分でもありますので、そういうことも考えますと、毎年でなくていいですから、やはりその部分をもう少し考えられないかということなんですけれども、いかがでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） ありがとうございます。確かに、今いろんな非行関係が多くなっている時代でございます。ただ、講師については毎年講師代がかからないと言ったらいいですか、警察官の方だったり、その他非行に携わっている方で公的なところに勤めている方をお願いして、できるだけ講師代がかからないような講師を選んでいるのが現状でございます。1万円ということで、少ないんですが、事業が今言ったようにいろいろあります。できたのは40年ぐらい前で、ヤマザキ先生という方が最初に指導員ということでした時代は、看板をつくったり、さらには学校で講習会なんかをやりましたが、そこら辺も青少年のための町民会議の中で議論していきたいと考えております。ありがとうございます。

○副委員長（杉浦謙一君） 1番。

○1番（竹中弘光君） 町長も言っていますけれども、経費を削るところは削るという部分では賛成でございます。ただ、今課長から答弁ありましたけれども、いろいろ努力しているのは認めるところでございます。やっぱりそういう形で努力していただいている部分に関しては多少予算をつけるべきと考えますので、今後検討願います。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） この際、会議を1時間延長します。

生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） その辺、前向きに検討してまいりたいと思います。ありがとうございました。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） なければ、次に移ります。6項保健体育費、190ページから197ページまでにわたります。6番。

○6番（只野 順君） 保健体育事務経費に関しまして、私のところはまた予算がないやつがありまして、総合型地域スポーツクラブ事業、ゼロ円ですね。昨年度は50万円。この事業は、行政が主導するという形で立ち上げた

事業です。ことし何年になりますかね。そこのところを1つ。

それから、涌谷町の体育協会の補助金、去年は90万円、ことしは81万円。10%カット、見事でございます。そこはよろしいんでございますけれども、来週3月21日に行われます涌谷町のクロスカントリー大会の案内は町長と議長に来ていると思いますけれども、我々議員には一言もというか、案内さえ来ておりません。涌谷町挙げて、去年も言いました、「金のいぶき」の冠をつけて、そして町長が頑張っていると。なぜこれをやれないのか。その点についてお聞きしたいと思います。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） それでは、総合型地域スポーツクラブ、ことし全額減額になっているのはなぜかということでございます。まず、設立は平成29年4月で、2年目になります。当初の目的は、総合型地域スポーツクラブに自立をさせて、総合型スポーツを活性化しようという事業でございます。それで、どのようなことを今後やっていくかということなのですが、今回は予算が減額しておりますが、これまでヨガとかノルディックウォーキング、ストリートダンスというので、今62人の会員がおりまして、1回500円いただいて、その中で何とか事業をこなしているというのが現状でございますが、今後、新年度はないのにどうしたらいいかということもありますが、昨年の残と合わせて、あと受益者負担をいただきながら、何とか新年度はこなしていきたいと考えております。

もう1点、クロスカントリー大会については、陸協の事業ということもありますが、実行委員会のほうで運営しておりまして、当然町の予算はありません。実行委員会の中で、さらには町内の企業さん、自動車学校とかJAさんに協賛をいただきまして事業を行う予定にしておりまして、現在509名の参加があります。それで、議員さんたちになぜご案内をしないのかということでございますが、実行委員会のほうで決めておりますので、その辺は今後検討してまいりたいと考えております。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） 総合型地域スポーツクラブ事業、今涌谷町は非常事態宣言を行って、子供たちも大人も少し気持ち的には暗くなっていると思う中で、やっぱり元気にするものというスポーツなんですよ。それで、町長もずっとスポーツ関係に携わって、行ってきましたけれども、立ち上げて2年目に状態が悪いという形でゼロ円というのは、私はあり得ないと考えております。やはり広告、あるいは募集の宣伝をきちんとして、町民にもっと理解してもらって、それで事業をしているんだと。涌谷町を元気にするのはスポーツが一番手取り早いです。そういった点で、ひとつ考えていただきたい。

それから、クロスカントリーの大会に関しましてですが、実行委員会を確かにつくっていますけれども、その実行委員会のメンバーは誰ですか。陸協でしょう。陸協に入っている方々。その人たちに対しても、何も実行委員会の中じゃなくて、皆さん協力してやっているわけでしょう、出てきて。やっぱりそれは基本的に町としてやるんだという形にしないと、わざわざよそから来ていただいて、前にも言いましたけれども涌谷の宣伝を、温泉もありますし、十分使えますから、その辺を判断してやっていただきたいのと、やはり宣伝が全然足りません。ポスター1枚つくってもいいですよ。何ぼもかかりませんから。よそのを見てきてさ。他町村もそうです。今、陸協の親は自分たちで旗をつくって、そしてのぼりを立てて、隣の町、田尻もそうです、美里もそうです、そこで子供たちを走らせています。感動しますよ。よく行って見て、そして涌谷でやれることをきちんとしてくださ

いよ。それをやらないと、涌谷町はそれこそこれからますます暗くなって、何でこの状況を打破するかといったらスポーツでありますから、来週あたりちゃんと見ていただいて、そしてその子供たち、親の頑張りを踏まえて、スポーツ振興に力を尽くしてください。

以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 生涯学習課長。

○生涯学習課参事兼課長（達曾部義美君） まず、総合型地域スポーツクラブ事業に関しては、確かにスポーツは活性化の一つでないかということで担当課では思っておりますし、当然スポーツを通して元気になっていただければなと思っております。総合型スポーツについては、もう少し内容を精査して、どのような総合型スポーツにするかということで、目的にありますように競技レベルに合わせたスポーツだったり、趣味の があるスポーツ型クラブだったりということで、地域密着型のスポーツができるような体制を計画といったらいいですか、その辺を早急につくってまいりたいと考えております。

2点目のクロスカントリーについては、涌谷町では今回は509人ですが、隣の町では倍以上の参加者が来ているというはお聞きしております。これをもう少し広げて、町民運動会ではないですが町の一大イベントと言えるようなクロスカントリーにできればということで、担当のほうでも前向きに考えてまいりたいと思っておりますし、クロスカントリーそのものを少し視点を変えてやろうということで、今回は先ほど申し上げたように初めて企業からの支援があります。その辺を有効に活用しながら、もう少し大きくして、隣町を参考にしながら、近隣市町村、さらには県内でやっている大会をもう一度検証しまして、これまで以上にできるように、実行委員会に事務局として申し上げていきたいと考えております。ありがとうございました。

○副委員長（杉浦謙一君） 6番。

○6番（只野 順君） 担当に言ってもなかなか、毎年言っていることもありますから、あとは3月で退官になると思いますので、町長が一番この辺に関してはどういった町を盛り上げる事業なのかということで、昨年から言っていますし、そして「金のいぶき」を使ったイベントもということでお話ししていますので、ぜひ全町挙げて取り組んで、そしてできれば3月21日の状況を見て、一度休止するのも私は可能かなと思っています。そして事業の見直しを行うというのはいいことだと思いますけれども、そういったことも含めて町長はどう考えますか。

○副委員長（杉浦謙一君） 町長。

○町長（大橋信夫君） クロカンにつきましては、実行委員会を立ち上げて実施するという方向で、なおかつ自動車学校からも協賛していただくというような形のございます。議員さん方に案内がなかったのは大変落ち度もあったのかなと思っておりますので、早速皆さん方にご案内を差し上げたいと思っております。

それから、総合型スポーツなんですが、体育協会がございます。81万円の補助金がこしも予算化されておりますが、体育協会自体での事業というのが目ぼしいものがないと。各参加団体との協賛事業というのもございますが、であるならば総合型と体育協会の事業を合築してもいいのではないかという考えもございます。そういった指導もしていきたいと思っております。

○副委員長（杉浦謙一君） 休憩します。

休憩 午後4時05分

再開 午後4時05分

〔出席委員数休憩前に同じ〕

○副委員長（杉浦謙一君） 再開します。

ほかに質疑される方、おりますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。12款公債費1項公債費、198ページから199ページであります。10番。

○10番（門田善則君） 確認になるかとは思いますが、町起債の元金がありまして、それに対する利子というものがあられるわけですが、平成7年度から借り入れを起しているもので、金利が高いもの、2.2%とか2.9%とかあられるわけですが、これは金利が高いので繰り上げ償還ができないものかなと思ったんですが、いかがでしょうか。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） お答え申し上げます。

原則としまして、国、その他、七十七銀行と縁故債と呼ばれるものについては可能性はありますけれども、そのほかのものにつきましては繰り上げ償還はできないということになっております。それから、もっと前ですと5%以上の利率だったものについては、借りかえをして、より安くということでは国の制度はありましたが、基本的にはできないということで、ご理解いただきたいと思っております。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） よくわかりました。皆さんも理解できたかと思うんですが、「」の声あり）俺だけだったですか、わからなかったの。そうですか。俺、わからない人もいるのかなと思って聞いてみたんですが。

それはいいんですけれども、今後なんですか、今課長が借りかえでやれるものもあるんだというお話をされましたけれども、七十七銀行とかそういう民間の部分で、今後借りかえを考えているものというものはあるんですか。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） 今、通常銀行等から借りているものについては、10年でやっております。

10年後の、結局それが逆にそのときの利率になりますので、安くなるのか高くなるのかわからないんですが、銀行については10年で借りかえをしていると。ただ、安く借りかえという意味ではなくて、そのときの世の中の情勢によつての利率に現状として変えるというような借りかえということになります。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） 10番。

○10番（門田善則君） 今ゼロ金利というような形の中でやっているものですから、極端な話、貯金しても大した利子はつかないと。逆に借りるほうが金利が高いという部分もありますので、もしそういうものが発生した場合には、10年ということを見越した場合には、すぐ借りかえを調査してみるというのもいいかと思っておりますので、今後そのようにしたらどうかと思っております。

○副委員長（杉浦謙一君） 企画財政課長。

○企画財政課参事兼課長（今野博行君） その10年というのも、当然契約になっておりますので、こちらの都合で

言って、相手方が了解すればよろしいですが、あとはそのときの協議ということになるかと思えます。以上です。

○副委員長（杉浦謙一君） ほかに。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 次に移ります。14款予備費1項予備費、198ページ、199ページであります。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） これにて質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） これにて討論を終結いたします。

これより議案第26号 平成31年度涌谷町一般会計予算を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○副委員長（杉浦謙一君） 起立全員であります。よって、議案第26号 平成31年度涌谷町一般会計予算は原案のとおり可決すべきものと決しました。

◇

◎延会について

○副委員長（杉浦謙一君） お諮りします。

本日の会議はこの程度にとどめ、延会したいと思えます。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○副委員長（杉浦謙一君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって延会することに決しました。

◇

◎延会の宣告

○副委員長（杉浦謙一君） 本日はこれで延会いたします。

ご苦労さまでした。

延会 午後4時10分